

資料3

海外ネットワークに関する万国津梁会議  
提言書(案)

2021年〇月

(前回会議からの変更箇所を下線を引いています)

## I はじめに

1. 「海外ネットワーク」について p1
2. 世界のウチナーネットワークに関する取組 p1
  - (1) 世界のウチナーンチュ大会と世界のウチナーンチュの日
  - (2) 県による世界のウチナーネットワーク強化推進事業と人材育成事業
3. 世界のウチナーネットワークに関する課題 p2

## II 4つの課題にかかる分析

1. 課題の背景 p3
2. 課題の現状分析 p3

### (1) アンケート調査の実施

- a. 沖縄の文化継承に係る活動のこれまでの実施状況について(課題①関連)
- b. 世界のウチナーンチュに関するイベント・活動実施状況について (課題②関連)
- c. 沖縄経済の自立的発展に向けたウチナーネットワークの寄与について(課題③関連)
- d. 海外のウチナーンチュとの事業・ビジネス経験について(課題③関連)
- e. 世界のウチナーンチュの拠点として必要な機能について(課題④関連)
- f. 本会議へ期待することについて
- g. 第7回世界のウチナーンチュ大会の開催について

### (2) 現在進行中の取組・事業

【課題①(若者の参加低下・世代間ギャップ)関連】 p7

- a. #UCHINA1000
- b. 次世代ウチナーネットワーク継承基盤構築事業
- c. 移民の歴史啓発事業
- d. 世界若者ウチナーンチュ大会
- e. 若者を対象とした各種事業

【課題②(ウチナーンチュの意識・アイデンティティの低下)関連】 p9

- a. World Uchinanchu Network (Web サイト:通称 WUN)
- b. #sekainouchinanchu
- c. 世界のウチナーンチュの日関連事業

【課題③ウチナーネットワークの有効活用】(について)関連】 p10

- a. WUB ネットワーク
- b. 沖縄の経済活性化を目的とした「Okinawa to 沖縄プロジェクト」など
- c. 海外県人会・県内企業と県海外事務所との連携
- d. ウチナー民間大使との連携

e. JICA 中小企業・SDGs ビジネス支援事業の活用

【課題④(海外ネットワークの県内活動拠点)関連】 p12

- a. 世界ウチナーンチュセンター設立支援委員会
- b. 次世代ウチナーネットワーク継承基盤構築事業

### Ⅲ 4つの課題にかかる検討・考察

1. 「課題① 若者の県人会活動等への参加減少傾向」について p14

●若者が沖縄の文化継承活動により多く参加し、世代間の連携を促進するための提案:

- a. 沖縄文化のオンライン・オンデマンド教室の促進
- b. 世界のウチナーンチュ(老若男女)のオンライン交流の促進

2. 「課題② ウチナーンチュの意識・アイデンティティの低下」について p14

●“ウチナーンチュ”としての意識を高めるための提案:

- a. ウチナーンチュ意識の「見える化」を推進
- b. 「ネット」ワークから「ノット」ワークへの転換
- c. WUN をネット上のウチナーンチュ・プラットフォームの拠点に
- d. 「世界のウチナーンチュの日」を前に移民学習の機会を奨励

3. 「課題③ ウチナーネットワークの有効活用」について p16

●ウチナーネットワークが沖縄経済の自立的発展に寄与するための提案:

- a. ウチナーネット(ノット)ワークでは信頼関係の構築が「肝心」
- b. 「つなぎ方」次第で大いに活用できる
- c. 活躍する海外県系人と県内企業とのきめ細かなマッチング
- d. 沖縄のネットワークの価値観に沿ったビジネス展開を
- e. 海外県系人ビジネスの特別窓口を県庁内に設置

4. 「課題④ 海外ネットワークの県内活動拠点」について p17

●沖縄県内に海外ネットワークの活動拠点を設置・定着させるための提案:

- a. 沖縄県内にウチナーンチュ・プラットフォームの「場」を設置
- b. 海外の沖縄県系社会とネットワークを持つ団体との連携を推進
- c. 県庁内の情報共有(横の連携)と情報継承(アーカイブ)の強化

5. 全課題に共通する提言 p19

- a. 関心や専門性のある分野・課題で様々な繋がりをもつ
- b. ウチナーネットワークの活用の多様なあり方を実践する

Ⅳ おわりに p20

○資料編その1 提言書鳥瞰図 p22

○資料編その2 アンケート調査	p23
○資料編その3 <u>ウチナーネットワークに関する県・市町村・関係団体の取組</u>	
(1) <u>「世界のウチナーンチュの日」関連の取組</u>	p28
(2) <u>県のウチナーネットワーク関連事業</u>	p34
(3) <u>市町村の人材育成関連事業(令和元年度市町村の国際交流・協力事業)</u>	p35
○略語一覧	p43
○アンケートに協力いただいたウチナーネットワーク団体（URL掲載承諾を得た団体一覧）	p44

## I. はじめに

### 1. 「海外ネットワーク」について

「沖縄 21 世紀ビジョン・基本理念」<sup>1</sup>を受けて策定された「沖縄振興計画」<sup>2</sup>には施策展開の枠組みとして、「21 世紀万国津梁実現の基盤づくり」がある。そこには人・モノ・資金・情報などの資源が国境を越えて活発に行き交う国際的なプラットフォーム(共通基盤)の形成があり、文化活動や経済活動等、多分野と多元的な交流を通じて形成される「世界のウチナーネットワーク」<sup>3</sup>を拡大することへの期待が高まった。

「ウチナーネットワーク」とは、「①沖縄県系人(海外及び県外に移住した沖縄県出身者やその子弟)、②沖縄県民、③沖縄と縁のある人々、との多元的なつながり」をいい、血縁の繋がりだけではない、幅広いネットワークであることが沖縄県において説明されている。

### 2. 世界のウチナーネットワークに関する取組

#### (1) 世界のウチナーンチュ大会と世界のウチナーンチュの日

「世界のウチナーンチュ大会」は、世界各地の県系人の功績をたたえるとともに、県民との交流を通してウチナーネットワークを拡大・発展させ、さらに母県である沖縄に集い、そのルーツやアイデンティティを確認し次世代へ継承していくことを目的としている<sup>4</sup>。1990 年に初めて開催され、17 か国から 2,397 人が参加した。その後、概ね 5 年に一度のペースで開催されており、1995 年(第 2 回)、2001 年(第 3 回)、2006 年(第 4 回)、2011 年(第 5 回)、2016 年(第 6 回)に開催された。これまでの大会を通じ、「ウチナー民間大使」制度の発足、WUB(Worldwide Uchinanchu Business Network)の設立などが実現している。

特に、第 6 回大会は、海外 29 か国・地域から 7,353 名、国内 603 名が参加し、過去最高の規模となる中、その閉会式において、10 月 30 日を「世界のウチナーンチュの日」に制定することが、大会実行委員会会長の翁長知事より宣言された。これ以降、毎年 10 月 30 日には、県内外で、交流や移民の歴史啓発等に関するさまざまなイベントが行われている(資料編参照)。

#### (2) 県による世界のウチナーネットワーク強化推進事業と人材育成事業

沖縄県は、世界のウチナーンチュの日制定を機に、ウチナーネットワークに関わる人々が沖縄に関する取組を自主的に行い、広げること等を目的として、世界のウチナーネットワーク強化推進事業を推進している。具体的には、WEB サイトの運営や SNS による情報発信、沖縄文化芸能者の海外派遣、出前講座／指導者養成講座(レッツスタディ！ウチナーネットワーク)の実施、 討論会やトー

<sup>1</sup> 平成 22 年 3 月制定。時代を切り開き、世界と交流し、共に支えあう平和で豊かな美ら島おきなわ、と記載。

<sup>2</sup> 「沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」(平成 24 年 5 月)には、地球規模で人・モノ・資金情報などが行き交う現代にあって、東アジアの中心に位置するなどの沖縄の持つ特性は、諸外国・地域との経済、学術、文化、スポーツなどの分野で交流と連携を深めながら、ともに発展していくという枠組みの中でこそ発揮される。

<sup>3</sup> ウチナーネットワークの「ウチナー(沖縄)」とは、①海外および県外に移住した沖縄県出身者やその子弟(沖縄県系人)、②沖縄県民、③沖縄と縁のある人々、である。例えば、①は第 6 回世界のウチナーンチュ大会に合わせ、海外で生活する県系人の人数を 41 万 5361 人とする推計をまとめた。前回大会(2011 年)から約 1 万 6 千人が増え、初めて 40 万人を突破。第 1 回大会(1990 年)の 27 万人から 1.5 倍に増えた(沖縄県交流推進課 2016)。

<sup>4</sup> 第 7 回世界のウチナーンチュ大会 HP「大会概要」(<https://wuf2022.com/ja/about>)

クイベントの開催、移民歴史啓発イベントなどが行われている。

また、ウチナーネットワークの次世代を担う人材、世界的な幅広い視野を持つ人材の育成を目的として、国内外から若者を受け入れ、県内の若者と交流するウチナーンチュ子弟等留学生受入事業およびウチナージュニアスタディー事業、県内の若者を海外に派遣し、現地の若者と交流する海邦養秀ネットワーク構築事業およびおきなわ国際協力人材育成事業等を実施している。  
(詳細は資料編参照。)

### 3. 世界のウチナーネットワークに関する課題

「沖縄振興計画」について審議する沖縄県振興審議会において、令和元年度、令和3年度まで残りの計画期間における施策展開と新たな振興計画の策定について審議された。その中において、重要性を増した課題として『ウチナーネットワーク』の継承・拡大」が掲げられ、「国際交流の推進については、海外在住の県系人の世代交代が進む中、若者の県人会活動等への参加が減少傾向にあるなど、ウチナーンチュとしての意識、アイデンティティーの低下が懸念されている。」との意見が付された。

また、前述の附帯意見に加え、沖縄21世紀ビジョンの将来像「世界に開かれた交流と共生の島」の実現に向け基本的課題として示されたネットワークの「活用」についても海外活動拠点という観点から課題として追加し、世界のウチナーネットワークの継承・発展に向けた課題として、次の4つが挙げられた<sup>5</sup>。

- ① 若者の県人会活動等への参加が減少傾向
- ② ウチナーンチュとしての意識・アイデンティティーの低下
- ③ ウチナーネットワークの沖縄経済の自立的発展への有効活用
- ④ 海外ネットワークの県内活動拠点の要望

これらの課題にどのように取り組み、ウチナーネットワークの継承・発展の推進、強化を図るべきかを検討するため、「海外ネットワークにかかる万国津梁会議」が設置された。本会議は2020(令和2)年度に3回開催し、知事との意見交換も実現した。2021(令和3)年度に2回の会議を開催した。

---

<sup>5</sup> 県人会・民間大使向けアンケート調査等より(平成28年)

## Ⅱ. 4 つの課題にかかる分析

### 1. 課題の背景

課題①「若者の県人会活動への参加減少傾向」は、ウチナーンチュ大会参加者アンケートにおいて「県人会活動への参加率が 59%(2011)から 42.8%(2016)に低下した」という結果を受けて抽出されたものである<sup>6</sup>。

課題②「ウチナーンチュの意識・アイデンティティの低下」は、県振興審議会の専門部会において「若者にウチナーンチュとしての意識や誇り、アイデンティティの低下が懸念されている」<sup>7</sup>という指摘がなされたこと、さらに、世界のウチナーンチュ大会アンケートで「自分をウチナーンチュだと思うかどうか」という質問に対する回答が 83%(2011)から 79%(2016)に低下した<sup>8</sup>という結果に基づくものである。

課題③「沖縄経済の自立的発展のため、ウチナーネットワークの有効活用」する点については、玉城知事公約において「世界のウチナーンチュネットワークを生かし、その活力を取り入れ、沖縄経済の自立的発展にもつなげる」ことが掲げられていたものである。

課題④「海外ネットワークの県内活動拠点」は、1987年に県民から県系人の交流活動拠点を目的とした施設の建設要望や、第2回及び第3回の世界のウチナーンチュ大会での提言等があり、1996年に沖縄県にて建設基本計画が策定されたものの、当時の県行財政改革により2007年に計画の廃止が決定されている。しかしながら、現在も一部団体から継続的に要望があがっているものである。

### 2. 課題の現状分析

#### (1) アンケート調査の実施

本会議として、4つの課題の現状を把握・分析するため、アンケート調査を実施した。対象は236団体で、回答があった団体は66団体(回答率28%)、同一団体における他者回答を含めると回答数は73であった。内訳は、海外県人会(34)、国内県人会(6)、県・市町村団体(6)、県内国際交流団体(13)、大会実行委員会・民間大使など(9)、WUB 関連団体(5)であった。

本会議に提示された4つの課題は「世代」、「地域」、「所属」に関連する。そのため、この3つの分類においてどのような傾向があるのかを分析した。属性別の回答者数は、「世代」分類では、30歳代以下の若年層(23名)、40歳代から50歳代の中年層(29名)、60歳代以上の老年層(21名)であった。また「地域」分類では、沖縄県内(16名)、県外(14名)、アジア等(7名)、北米(17名)、南米(19名)であった。そして「所属」分類では、県人会(36名)、交流団体(町人会、民間大使を含む:17名)、青年部(青年会、留学生会を含む:10名)、自治体(5名)、協会(3名)、企業(2名)であった。

<sup>6</sup> 但し、アンケートでは若者を対象に聞いた質問でないため、必ずしも若者の傾向とはいえない。

<sup>7</sup> 第5回沖縄県振興審議会文化観光スポーツ部会(令和元年11月20日)議事録より。

<sup>8</sup> 世界のウチナーンチュ大会参加者アンケート結果より(2016 p. 148)。しかし、地域別の内訳では 87.7%(海外)、87.9%(県内)、77.2%(県外)であり、海外や県内は逆にウチナーンチュとしての意識は高い。

以下、本文には 4 つの課題に係るアンケートの結果を中心に結果・考察を記載する。

a. 沖縄の文化継承に係る活動のこれまでの実施状況について(課題①関連)

世代別では、中年層(40～50代)が若干少なく、若年層(～30代)は比較的活動を実施している傾向にあった(図1参照)。地域別に県人会の活動状況を比較すると、県外の県人会、北米、南米の県人会にて沖縄の文化継承活動が実施されている状況であった。この結果からも、若者が沖縄の文化継承活動から離れているわけではないことが明らかとなった。

ただし、今回のアンケートでは30代までを「若年層」としているため、20代までの「若者」の活動状況は明らかでない。30代の県人会メンバーが活動の中心という報告もある中、活動参加への減少傾向がみられるという指摘は20代に対するものかもしれない。

いずれにせよ、海外コミュニティにおける沖縄との繋がりや活動形態は、SNSの台頭以降、変更しており、特に20代においては文化継承活動のプラットフォームそのものが多様化していると考えられる。かつては県人会が唯一の活動基盤であり、沖縄県庁と一元化された繋がりを持っていたが、WUBやWYUAの誕生により、今や活動のネットワークは多種多様である。県人会中心から多様化していく文化活動の実態を把握した上で、ネットワークやアイデンティティの継承を検証する必要があるだろう。

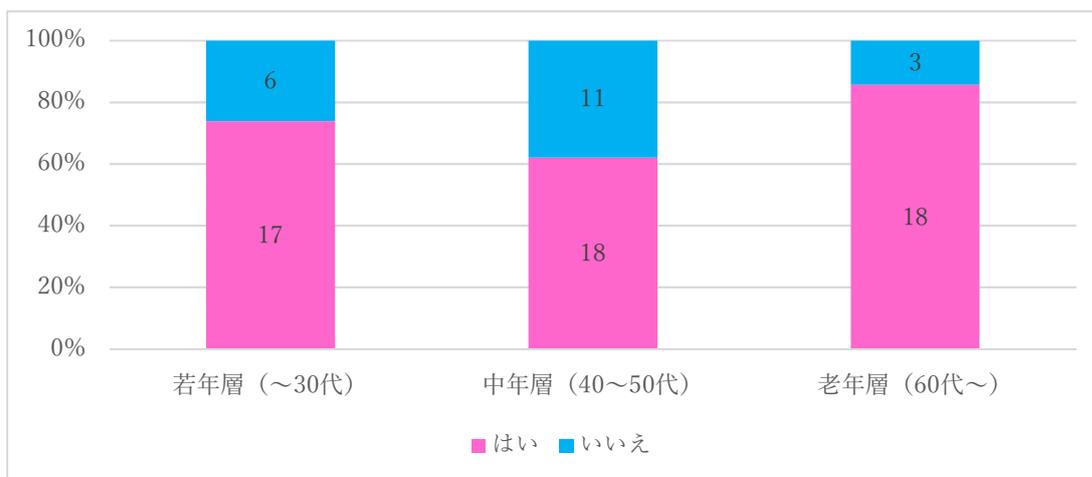


図1:沖縄文化継承の活動 (世代別)

b. 世界のウチナーンチュに関するイベント・活動実施状況について (課題②関連)

世代別では、若年層が一番、世界のウチナーンチュ関連のイベントや活動を活発に行っていた。地域別では、県外、アジアでの活動は約半数が実施していないと回答したのに対して、北米、南米など沖縄からの距離が遠いほど、啓発活動をしている傾向があった(図2参照)。県人会に関しては、どの地域の県人会も世界のウチナーンチュに関するイベントなどを実施していた。

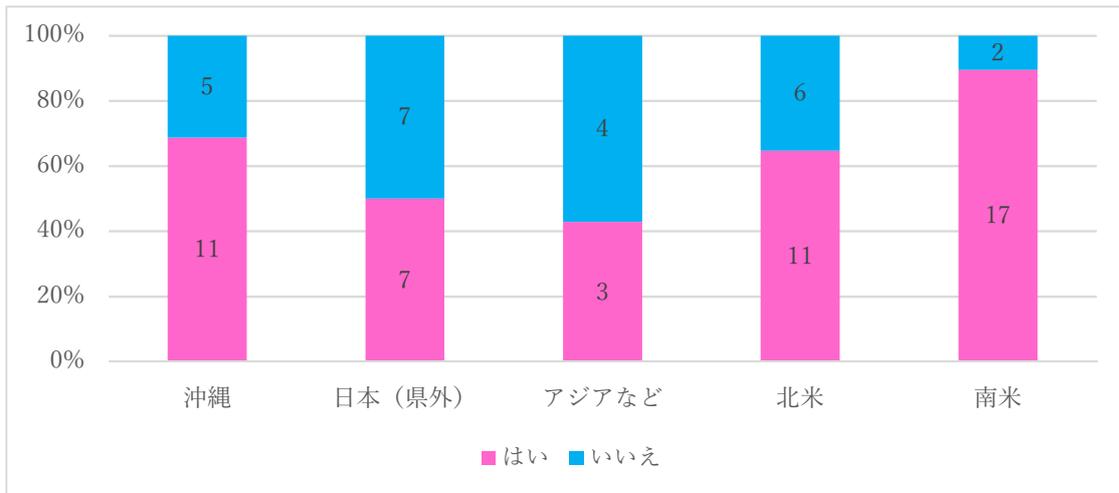


図2:世界のウチナーンチュに関するイベント活動実施状況(地域別)

c. 沖縄経済の自立的発展に向けたウチナーネットワークの寄与について(課題③関連)

世代別では、若年層が「自分が所属する団体は沖縄の自立的発展に寄与できる」と90%以上が前向きに回答した。地域別では沖縄県内の団体全てが、そして南米や北米など沖縄から遠方になればなるほど「寄与できる」と回答する傾向がみられた(図3参照)。一方、「寄与できない理由」として、「利害の一致が難しい」、「非営利団体として登録しているためビジネスに関われない」、「沖縄の政治的問題が多すぎて経済の安定が望めない」、「小規模、経済力の低い団体では沖縄経済の発展に寄与するほど力がない」などの回答があった。

これらは、沖縄を取り巻く社会情勢を冷静に分析した現実的な回答と考えられる。ウチナーネットワークを用いたビジネスを県外、アジア地域などで展開する場合、考慮が必要と思われる。

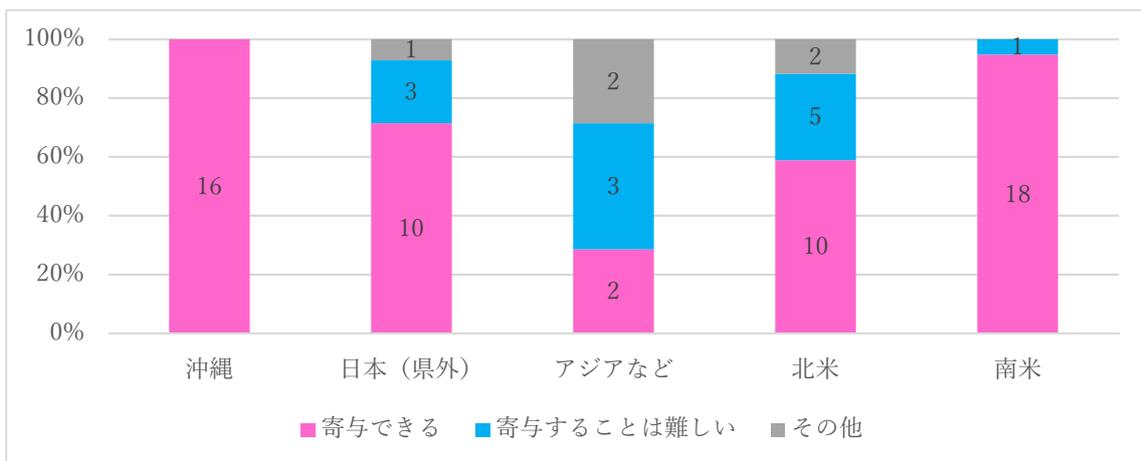


図3:貴団体は沖縄経済の自立的発展に向けてウチナーネットワークが寄与できるか(地域別)

d. 海外のウチナーンチュとの事業・ビジネス経験について（課題③関連）

世代別では、若者層に事業・ビジネス経験が多い傾向にあった(図4参照)<sup>9</sup>。地域別ではアジア地域で、事業・ビジネス経験がないという回答が顕著であった。地域別県人会でもアジア、そして県外の県人会にて、海外のウチナーンチュとの事業・ビジネス経験がないという回答が目立った。

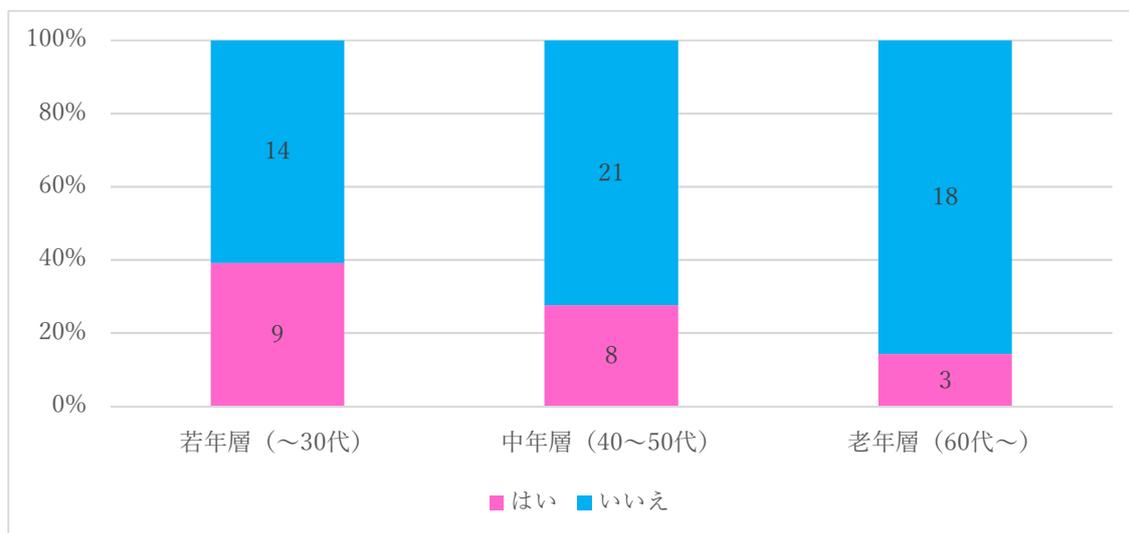


図4:海外のウチナーンチュとの事業・ビジネス経験（世代別）

e. 世界のウチナーンチュの拠点として必要な機能について(課題④関連)

沖縄県内に、世界のウチナーンチュの拠点を設立するとしたらどのような機能が必要かを質問したところ、「人的ネットワークを繋ぐ機能」に対する要望は、若年層、国内の県人会に強いリクエストがあった。また「情報の集約と発信の機能」に対する要望はアジアを除き、どの世代・地域も同程度要望があった。「オンラインイベントなどを実施する機能」に対する要望も、前述の要望と同程度であったが、若干、県外の組織(県人会を含む)で要望が少なかった。「交流の総合的窓口機能」および「移民歴史資料の情報収集機能」に関する要望は、アジア以外はどの世代・地域でも60～80%の要望があった。

f. 本会議へ期待することについて

今回、アンケートの質問のひとつとして「貴団体がこの『海外ネットワークに関する万国津梁会議』に期待すること」の自由記載を求めた。その記述を図式化すると、世代別では、若年層と中年層の共通語として「ネットワーク」、「文化」、「世界」が頻出したのに対して、中年層と老年層では「イベント」、「交流」であった(図5参照)。組織別では、県人会、留学生会に共通する頻出語が「沖縄」であったのに対して、自治体、青年会は「世界」「人」「ネットワーク」であった。地域別では沖縄県内外(日本)で「ネットワーク」「文化」「世界」が頻出語であったのに対して、海外(北米・南米・アジアの共通語

<sup>9</sup> ウチナーネットワークをどのように「活用」して事業・ビジネスを実施したのかの事例は後述する。

は「イベント」であった。

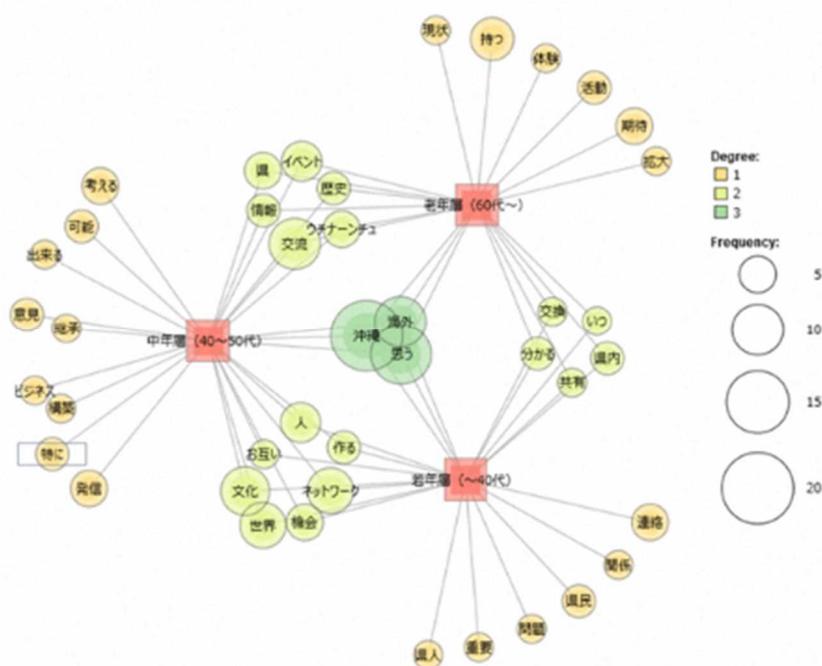


図5: 貴団体がこの『海外ネットワークに関する万国津梁会議』に期待すること(世代別)

以上の結果から、「ネットワーク」で広がる「世界」との繋がりに期待を抱く群(若者、市町村、県内外)と、「沖縄」関連「イベント」による「交流」を期待する群(海外、県人会、高齢層)という2つの異なる特徴がみられた。これらの期待は、本会議が検討対象とする4つの課題の考察の際に留意することとする。

#### g. 第7回世界のウチナーンチュ大会の開催について

今回のアンケートで「現在、新型コロナウイルスの影響が長期化した状況において、次回の第7回世界のウチナーンチュ大会は、どのような開催方法や交流のあり方を提案したいか」という質問し、自由記載を求めた。その結果、全世代で共通して「オンライン開催」を求める声が多かった。また若年・中年層では「沖縄」、「イベント」が共通語として挙げられ、沖縄で開催するイベントをオンラインで中継する「ハイブリッド」形式を提案する回答が多かった。組織別でも「オンライン」「参加」「開催」という言葉が目立ち、特に青年部が「沖縄」「イベント」を挙げている。地域別でも各地域で共通して「オンライン参加」、「開催」の意見が多い中で、北米・南米では「沖縄」の「イベント」を望む意見、また県外と南米からは大会を通じて「世界」と交流することを期待する傾向がみられた。

### (2) 現在進行中の取組・事業

#### 【課題①(若者の参加低下・世代間ギャップ)関連】

#### a. # UCHINA 1000

WUB が主催するイベントの1つで、世代を超えて、地域を超えて、気軽に世界のウチナーンチュが集うツール「#UCHINA 1000」がある。Zoom 会議を通じて世界のウチナーンチュと定期的<sup>10</sup>にインターネット上で顔出し参加で繋がる機会を設け、5年に一度の世界のウチナーンチュ大会の間隙を埋める役割を果たしている。また、毎回テーマを設け、ウチナーンチュによる専門的な話(講演)を聴く事が出来る。参加者は老若男女、南米・北米・アジアと様々な地域からであり、移動する必要がないこともあり、若者層と高齢層が一堂に会することによって、同一体験ができる点から、ウチナーネットワークの充実・拡大にポテンシャルが高い事業であると言える。

#### b. 次世代ウチナーネットワーク継承基盤構築事業

同事業(通称、ウチナーネットワークコンシェルジュ、以下 UNC)は、ウチナーネットワークに関する事業の実施機関が分かれている状況下で、窓口の一元化を目指し、沖縄県が実施主体となり、2020(令和2)年度に準備を開始し、2021(令和3)年度から始動することとされている。具体的な取組は、本事業を受託した WYUA(一般社団法人世界若者ウチナーンチュ連合会)と JOCA(公益社団法人青年海外協力協会)により進められる。また、JICA 沖縄(日系社会支援事業)とも連携し、UNC の拠点(事務局)として JICA 沖縄の施設の一部を使用することとしている。同事業は、国内外に広がるウチナーネットワークを次世代へ安定的に継承するためのプラットフォームの構築を目的とし、5つの機能強化を目指す(人的ネットワーク継承、情報発信・集約、交流活動促進、相談窓口、歴史継承推進)。具体的には、日常的な話題提供やオンラインイベント開催などにより SNS 上の交流を推進する<sup>11</sup>。また人的ネットワークに関しては、ウチナーンチュ子弟留学生事業の受け入れ<sup>12</sup>などの業務を担当し、過去の受け入れ・派遣参加者の連絡先の更新・整理も行う。

#### c. 移民の歴史啓発事業

沖縄県が実施するレッツスタディーウチナーネットワーク事業は、受託団体であるNPO法人沖縄 NGOセンターにより、県内の小中高大学での移民に関する出前講座が毎年数多く開催され、若者の沖縄移民に関する歴史啓発活動が行われている。近年、副教材として子どもにも初心者にも沖縄移民の古今がわかりやすい冊子「レッツスタディー!“Worldwide Uchinanchu”」が刊行<sup>13</sup>された。また、県主催の演劇公演<sup>14</sup>も、県内の幅広い世代に対してわかりやすく移民の歴史の啓発を図る事業の一つである。その他にも、名桜大学にて毎年開催<sup>15</sup>していた世界ウチナーンチュ学生サミ

<sup>10</sup> 第1回目は2020年5月10日、第2回目は6月28日、第3回目は8月29日、第4回目は12月26日第5回目は翌年4月17日と、頻繁に開催している。

<sup>11</sup> 2020年12月から2021年1月にかけて「第7回世界のウチナーンチュ大会開催に向けた海外県人会等 Web 会議」がアルゼンチン、ブラジル、ハワイを対象に2回開催された(同事業報告書 2021)

<sup>12</sup> 昭和47年から継続している事業。帰国後連絡が取れる留学生は10%程度(第3回本会議より)。

<sup>13</sup> 2020年2月刊行、DFデータはWUNのウェブサイトからダウンロードが可能(<https://wun.jp/wp-content/uploads/2020/06/c6c9e2c7e38f4cad8d9098581406fb45.pdf>)

<sup>14</sup> 2018~2020年度まで毎年開催(平良新助、世界のウチナーンチュ大会誕生の経緯、伊芸銀勇に関する物語)

<sup>15</sup> 2014年より毎年10月に開催(2020年はCOVID-19で中止)。主催者は「世界ウチナーンチュの日」の制定に尽力した、比嘉アンドレス氏と伊佐アンドレス氏。

ットは、ウチナンチュ子弟留学生と沖縄県内の大学生との交流から始まったものであるが、第6回学生サミットでは沖縄県と共同で「ネットワークの継承と発展」に関する討論会が開催された。<sup>16</sup> これらの試みは若者への移民の歴史に関する啓発活動として成果を上げてきている。

#### d. 世界若者ウチナンチュ大会

世界若者ウチナンチュ連合会(WYUA)が主催するイベントで、参加対象者は18歳から35歳まで。大会は、2012年南米ブラジル大会からはじまり、2013年北米アメリカ、2014年欧州ドイツ、2015年アジアフィリピン、2016年沖縄(第6回世界のウチナンチュ大会と連)、2018年南米ペルー(第6回)で開催し、海外11カ国・2地域から述べ約2千人が参加している。開催地となる大陸や国の課題、文化に合わせたプログラムを設計し、沖縄アイデンティティーや文化継承、ネットワーク強化・発展を目的としたワークショップ、次世代討論会などを実施している。ウチナーネットワークの長年の課題であった「次世代継承」に大きな兆しとなっており、大会参加者の中には、沖縄県費留学や市町村子弟研修事業に参加する者や県人会青年部で活躍する若者も生まれ、ウチナーネットワークの次世代を担う人材や世界的な幅広い視野を持つ人材の育成にもつながっている。

#### e. 若者を対象とした各種事業

ニーセーターツアーは、南米の若い県系人の交流を目的に2007年から南米4カ国の県人会が持ち回りで開催し、移民学習や伝統芸能体験学習、ホームステイなどを実施している。県主催のウチナージュニアスタディー事業は、国内外から海外移住者の子弟を沖縄県に招待し、県内の同年代の学生と生活を共にしながら、沖縄の歴史や文化、自然などを学習するプログラムを実施している。どちらのプログラム・事業も、参加年齢が10代から20代前半の若者であり、世界若者ウチナンチュ大会の参加者よりさらに下の若年層が参加している。

#### 【課題②(ウチナンチュの意識・アイデンティティの低下)関連】

ウチナンチュの意識の低下に対する課題を、沖縄の出自の人かどうかを問わず、沖縄のことをもっと好きになってもらうにはどうしたらいいか、まで広げて捉えた場合、以下のような事例がある。

#### a. World Uchinanchu Network (Webサイト:通称WUN)

沖縄県は2017(平成29)年度よりWebとSNSによる海外のウチナンチュ同士、県内外と海外との相互交流プラットフォームとしてWUNを構築した。内容は、同Webサイトに海外県人会や県内交流団体、留学生などのインタビュー、各団体の投稿した活動状況の情報、世界で活躍するウチナンチュコラム等、幅広い世代の興味を引くコンテンツの紹介、伝統芸能動画等海外県人会が興味を引くコンテンツの紹介、海外・国内基礎情報、各国の移民史、県人会沿革について、世界の

<sup>16</sup> 2019年12月12日名桜大学にて

ウチナーンチュ大会、関連イベントなどをデータベース化し、SNS などにより情報を発信している。そして Web へのアクセスや活動状況投稿が増えることにより、更に Web 内の情報が充実するという仕組みである。

ウチナーネットワークのWeb上の総合プラットフォームとして WUN の持つポテンシャルは高い。今後は、今まで以上に自らが関わった事業や収集したデータの公開だけでなく、ウチナーンチュによる文化継承活動関連団体や個人の Web のリンク先を紹介するなど、広範囲にわたる情報の収集と収束および発信機能の強化が期待される。また次世代ウチナーネットワーク継承基盤構築事業に関する情報を WUN で一元化するなど、常に進化する“プラットフォーム”を心がけ、WUN の知名度・アクセス度を高める必要がある。

#### b. #sekainouchinanchu

当該事業は、facebook と Instagram を活用した、ウチナーネットワークの情報共有等の推進を目的した事業で、WUN のプラットフォーム化を目指したものである。推進キャンペーンとして 2020(令和 2)年9月から 11 月まで集中的に行い、SNS 広告を配信し海外&国内&県内のウチナーンチュに広く参加を呼びかけた。2ヶ月間において、タグ付け記事の総数は約 300 件、記事に付いた「いいね」の総数は約 15,000 件であった。本事業は、#への参加を通じて沖縄について知る機会を多くの参加者に促した。

#### c. 世界のウチナーンチュの日関連事業

「世界ウチナーンチュの日」制定により県内市町村ではパネル展やイベント、海外ではアイデンティティや沖縄文化に関する自主的な取組が実施されている(資料編にも関連情報を記載)。2016 年の制定から 5 年を迎え、県系 3 世・4 世以降の若い世代の間にもルーツを確認し、人生の糧にしていく動きが出ている。

#### 【課題③(ウチナーネットワークの有効活用)関連】

##### a. WUB ネットワーク

WUB は、2019 年にフロリダで開催された WUB 会議でトマス技研(チリメーサー)の紹介をし、多くの参加者が興味を持った。WUB ネットワーク創始者が沖縄のトマス技研を訪問、同年、ハワイの島々を同社長が訪問し、契約が成立した<sup>17</sup>。

また、県内外でポーたまごおにぎりの専門店を展開する(株)ポーたまがハワイ出店を検討、WUB 沖縄支部へコンタクトを取り、WUB 創始者及び WUB ハワイへと繋がり、当該団体の全面的な支援を受け、2021 年に出店を実現した<sup>18</sup>。

なお、WUB ネットワークは、上記のビジネスを繋いでいく取組に加え、2011 年からは、沖縄県

<sup>17</sup> 第 1 回本会議議事録(トニー佐久田氏)より

<sup>18</sup> 「ポーたまハワイ出店 WUB ネットワークの交流について」(2021 年3月)WUB 提供資料より

宮古島と関西地域において、ハワイ州マウイ島の高校生とハワイと異なる文化に触れる学生交流事業にも継続的に取り組んでいる。WUB がハワイ・沖縄・関西のネットワークを活用した取組事例であり、人材育成にも積極的に取り組んでいる<sup>19</sup>。

#### b. 沖縄の経済活性化を目的とした「Okinawa to 沖縄プロジェクト」など

石垣市の農業生産法人(ゆいまー牧場)が、ボリビアの県系移住地「コロニア・オキナワ」から牛の飼料用大豆の直輸入を開始した。県出身者が経営する貿易会社を介し、直接輸入することによりコストが 40%削減された。

ボリビアでは本取組を発端に、ボリビアのウチナンチュが生産した大豆や小麦などの「産品」を沖縄や世界のマーケットに輸出していくことで、ウチナンチュによるオキナワ移住地と沖縄県の経済活性化、そしてビジネスを通じた人材育成を目指す「Okinawa to 沖縄プロジェクト」が始動した。将来的に、世界のウチナンチュへ拡大させていく展望を掲げている。プロジェクトでは、沖縄企業の海外進出及び製品・技術の普及に協力するほか、ウチナンチュビジネスの新たな展開の創作、持続可能なビジネスの開発をビジョンに掲げ、オキナワ移住地の農作物や生産物の調査、新たな生産物と沖縄県内企業とのマッチングを進めている。

#### c. 海外県人会・県内企業と県海外事務所との連携

在中国の日本人留学生及び日本語専攻学生などの中には、沖縄で働きたいという声も多い。そこで上海県人会が交流会を設定し、県上海事務所と連携して、上海と沖縄の橋渡しを行った。2017年には 10 企業、51 名が参加、2018 年には 15 企業 41 名が参加した実績がある。

また、県内企業と県海外事務所との連携事例として、2020 年、県内漁業団体が水産物をシンガポールへ輸出するにあたり、現地の簡易ハラール認定制度へ登録できるよう、県シンガポール事務所や県内貿易会社が地元沖縄企業に協力した事例がある。その後、当該海外事務所が現地大手食品会社へ当該水産物を紹介し実際の出荷に繋がった。

2020 年度のアジアの県海外事務所の活動を見ると、例えば台北事務所の報告<sup>20</sup>では、コロナ禍でも日本資本は盛んに新規参入し、各種サービス業はコンテンツ配信や E コマースなど、オンライン関連は成長しており、デジタルマーケティングの重要性はいまだに高く、今後の沖縄出身留学生の中長期的な活用が重要視されている。北京事務所の報告では、2019 年にはオンラインショッピングの家ライブコマースによる売り上げが前年比3倍に増加し、ビジネスの新しい形態として注目を集めている<sup>21</sup>。シンガポール事務所では、現地旅行社に対する Webinar 実施、沖縄のバーチャルツアーで旅行商品の造成や販売を協議中である<sup>22</sup>。

---

<sup>19</sup> 「WUB 関西 マウイ学生交流事業」WUB 提供資料より

<sup>20</sup> 「変化する台湾市場へのアプローチ」(沖縄県産業振興公社台北事務所 仲本氏)プレゼン資料より

<sup>21</sup> 「新型コロナで変わったこと、変わらないこと」(公益財団法人沖縄県産業振興公社北京代表処首席代表 町田氏)のプレゼン資料より

<sup>22</sup> 「シンガポールの現状・変化・今後の展望」

#### d. ウチナー民間大使との連携

1990年(平成2年)から沖縄県が認証してきた「ウチナー民間大使」と連携し、民間大使が自ら実施できる「ウチナー民間大使活動促進事業」を実施している。民間大使の中には、県人会社会や沖縄文化の継承・発展のために尽力している人が多く、本事業を活用することで、在住国での人材育成、文化継承、沖縄県との人的ネットワークの充実強化につながっている。

#### e. JICA 中小企業・SDGs ビジネス支援事業の活用

JICA が実施する同事業は、途上国が抱える課題解決と企業の海外展開を兼ねて実現することを目指している。同事業を活用し、レキオソフト(株)は、2019年～2020年にペルーにおいて自ら開発した早期地震探知システムの導入にむけた調査を実施、日本・ペルー防災センターや環境省地球物理庁、国家防災庁とも連携し、現地受注に向け取り組んでいる<sup>23</sup>。また、トマス技研(株)は、2016年からインドネシアの医療機関で医療廃棄物を安全かつ環境にやさしく処理をする小型焼却炉(チリメーサー)の普及実証事業を実施し、10台余の契約につながった<sup>24</sup>。

#### 【課題④(海外ネットワークの県内活動拠点)関連】

##### a. 世界ウチナーンチュセンター設立支援委員会

世界ウチナーンチュセンター設立支援委員会は、2020年度に発表した報告書「世界ウチナーンチュセンター:沖縄に本家をつくろう!!」において、「1990年にはじめて開催された世界のウチナーンチュ大会から6回、26年の歴史を数えるこの国際交流イベントを単なるイベントだけで終結させるのではなく、世界ウチナーンチュの一体的未来社会の構築にいかにつまみさせるかという時代に入った」いま、「同大会で蓄積してきた世界のウチナーンチュネットワークを更に構築、活用し、各国・地域との情報交換、人材交流、経済・文化交流を積極的に推進する」ためには、「各地域の沖縄県人会と沖縄をネットする本家(むーとぅや)、“世界ウチナーンチュセンター”を沖縄に設置し、世界のウチナーンチュの一体感を一層造成することが肝要である。」<sup>25</sup>と述べている。多数のウチナーンチュの有識者・関係者の意見が掲載されており、同センターに対して多機能を求めている。

他にも類似の構想として、比嘉アンドレス氏を中心に議論されている「万国津梁センター(仮称)」案がある。同氏の説明によれば、沖縄を中心に世界へとつなげる窓口や事務所の機能を持ち、その窓口を通じて文化の共有やビジネスのきっかけになる品物の輸出入を通じて、世界中のウチナーンチュのネットワークを強化するものであり、世界のウチナーンチュの研修生や留学生を増員することにより、互いの国の良いところを更にミックス(チャンプルー)し新しい文化の発展にもつなげるという構想である。

##### b. 次世代ウチナーネットワーク継承基盤構築事業

<sup>23</sup> 琉球新報 掲載記事より(2020年3月20日)

<sup>24</sup> 琉球新報 掲載記事より(2020年4月14日)

<sup>25</sup> 世界ウチナーンチュセンター設置支援委員会(2020)「世界ウチナーンチュセンター:沖縄に本家をつくろう!!」pp.1-2.

前述のとおり<sup>26</sup>、同事業の拠点(事務局)は、連携先の JICA 沖縄の施設の一部を使用することとなり、今後、交流(海外関係者とのオンライン交流、県内交流団体も使用可能な場)や史料閲覧(移民資料情報収集、展示、閲覧)のスペース等の確保が検討されている。

---

<sup>26</sup> (2)課題①bに記載

### Ⅲ. 4つの課題にかかる検討・考察

4つの課題にそれぞれについて、5回の会議で委員から出された意見や議論を紹介するとともに、今後に向けての提案・提言を示す。

#### 1. 「課題① 若者の県人会活動等への参加減少傾向」について

若者の県人会などへの参加が減少傾向にあるという指摘があるが、そもそも県人会という対面組織で人が繋がる形態から、近年の情報化社会の潮流で SNS 等を通じたインターネット上の繋がりが中心にシフトしている。実際に、若者たちは海外にウチナーンチュがいることを知る機会が増えてきている。また WYUA の活動や県内大学での取組を見ると、必ずしも若者の意識が低下しているとは言えない。但し、南米、北米、欧州、アジアで県人会の規模や国による違いがあり、大陸ごとに課題を捉える必要がある。

●若者が沖縄の文化継承活動により多く参加し、世代間の連携を促進するための提案:

##### a. 沖縄文化のオンライン・オンデマンド教室の促進

コロナ禍でも左右されないオンラインを活用した新たな繋がり方でウチナーネットワークを強化する。具体的には、沖縄の伝統文化や芸能の指導者(しまくとぅば、三線、琉球舞踊、空手、伝統料理、伝統スポーツなど)の派遣による対面指導に加え、オンライン指導講座を並行し、文化に触れる機会を提供するなど更なる普及と支援を行う。また、隣国同士で連携し、指導者を派遣、受入するなど、も新たな取組として考えられる。

##### b. 世界のウチナーンチュ(老若男女)のオンライン交流の促進

世界のウチナーンチュ老若男女が集う仕組みを継続的かつ頻繁に実施できるような活動を WUN で紹介する。例えば、# UCHINA1000 のオンライン交流など。

#### 2. 「課題② ウチナーンチュの意識・アイデンティティの低下」について

海外・県内の状況からウチナーンチュとしての意識などの低下やアイデンティティの低下はみられない。そもそも、アイデンティティは個人に属するものであり、ウチナーンチュのアイデンティティも一般県民と海外の県系人、移住先における世代や地域・歴史・社会環境などによって様々であり多様性がある。したがってアイデンティティを“継承”するという表現自体に疑問がある。継承を望むのは、「助け合い(ゆいまーる)」、「異文化の受け入れ」、「平和」といった沖縄の精神文化である。また県系人の意識の低下などが課題として取り上げられているが、まずは「ウチナーネットワーク」の定義について共通認識を持つべきである。「ウチナーネットワーク」とは、広義の意味で沖縄に祖先をもつ人のみならず、沖縄に縁のある人、沖縄が好きなの人も対象である。そのためウチナーンチュのネットワークに参加する者の多様性についても共通認識が必要である。

●“ウチナーンチュ”としての意識を高めるための提案：

a. ウチナーンチュ意識の「見える化」を推進

『ちむぐくる(肝心)』、『うとぅいむち(おもてなし)』の精神は目に見えず表現しにくい。それを見える化し、県民が表現していくのが大切<sup>27</sup>である。

b. 「ネット」ワークから「ノット」ワークへの転換

「ネット」ワークは、中心から放射線状に広がる人の繋がりである。その弱点は、中心が求心力を失うと組織全体が脆弱化しやすい点である。これからの時代は「ノット」ワーク、すなわち組織の決定や人間関係に左右されることなく、個人は組織に緩やかに所属するかもしれないが、どちらかといえば、組織そのものを強化することよりも、他組織との繋がりや交流・意見交換ができた個人のニーズが満たされることにより、組織に存在意義を感じる傾向が主流となるであろう。このような、組織の中心を必ずしも意識しない「ノット」ワーク的発想は、WUB の設立趣意とも合致するが<sup>28</sup>、今後、ウチナーネットワークの強化に必要不可欠な体制と考えられる。

また、世界各地のウチナーンチュ・コミュニティや、そこに属する個人が「ノット」を強化し、同時に脱中心化された「ネット」が生み出すシナジー効果を活用すれば、世界のウチナーンチュ人口を増やす原動力になり、それは「ダイバーシティ」を基調とした共同体でもあり、今後の地球社会における共生共存のモデルとなる可能性をも含むと考えられる。

c. WUN をネット上のウチナーンチュ・プラットフォームの拠点に

沖縄の、特にウチナーネットワークのことが凝縮される Web サイト「WUN」は、ウチナーネットワークの更なる強化と拡大に寄与する可能性が期待される。

Web サイト「WUN」をウチナーネット(ノット)ワークのCyber(インターネット上の)プラットフォーム(繋がる共通の土台)とするため、国内外の様々なウチナーンチュ活動の HP の URL や SNS を紹介する。まずは今回、委員会の実施したアンケートの対象団体には、本提言書の内容をフィードバックし、回答のあった活動の URL を全て WUN に掲載することを期待する<sup>29</sup>。沖縄県主催・沖縄県の企画推進事業以外の情報も掲載することが望まれる。概して沖縄好きの人は世界に多数存在し、その数は年々増している。彼らが、沖縄の美しい自然や人の温かさのみならず、なぜ沖縄人が世界のあらゆる土地で根付くようになったかという移民の歴史や社会背景を知ることにより、沖縄を更に身近にそして魅力的に感じることができ、“ウチナーンチュ”人口は益々増加すると推測される。

なお、コロナ禍で培ったオンライン交流の経験は応用すべきだが、対面と比較してオンライン交流は「共感」度が劣る懸念がある。そのため、オンライン交流の内容に関しては、「知識」に偏る

<sup>27</sup> 第 5 回沖縄県振興審議会文化観光スポーツ部会(令和元年 11 月 20 日)議事録より(佐野、富田)

<sup>28</sup> WUB の設立は、沖縄が「ネットワーク」の中心であるという発想から、ハワイを始め、世界に広がる沖縄関連組織間の繋がりにという発想の転換も込められていた。つまり「ノットワーク」志向への先駆けであった。

<sup>29</sup> 課題①関連 URL(23 件)、課題②関連 URL(21 件)課題③関連(6件)、団体の URL 紹介可能: 33 団体(/41 団体中)

ことなく、「体験」や「共感」、「一体感」をどれだけ作り出し、共有できるかがカギとなるであろう。

d. 「世界のウチナーンチュの日」を前に移民学習の機会を奨励

県内では6月23日の慰霊の日を前に学校教育として平和教育が導入されている。沖縄の戦前・戦後移民史は沖縄戦との関係も深く、当時県民の約10人に1人が海外へ移民したが、県民がなぜ移民をしないといけなかったのか、戦後の救済活動の展開、現在の海外沖縄社会など学ぶ機会を提供することで歴史継承、海外への視野拡大につながる。教材は、沖縄NGOセンターが小中高大学で実施している移民に関する出前講座の移民学習教材を活用する他、UNCを利用した学習の実施も今後可能であるとする。学校と行政、UNC等が連携して指導内容や指導方法を構築し、「海外沖縄移民」学習を学校教育に取り入れる。

3. 「課題③ ウチナーネットワークの有効活用」について

ウチナーネットワークは移民の歴史を起源としており、移住者の受難の歴史、相互扶助の歴史の根底にあるのは人間関係・信頼関係である。またウチナーンチュたらしめている「ちむぐる」とは、琉球王国の時代、移民の歴史、戦争体験名地を生き抜いてきた中での「ゆいまーる」精神、普遍的な価値観、共感である。沖縄県民、本土にいる沖縄県出身者、そして沖縄好きな人々までネットワークを拡大することで、経済面だけのビジネスでなく、「ちむぐる」による新たなビジネス(ソーシャルビジネス等)へと広がりを見せるのではないか。そもそもネットワークには「繋がりたい」と「使いたい」という2つの目的がある。本会議では「繋がる」ことをウチナーネットワークの第一の目的と捉えることにした。

●ウチナーネットワークが沖縄経済の自立的発展に寄与するための提案:

a. ウチナーネット(ノット)ワークでは信頼関係の構築が「肝心」

ウチナーネットワークは肝心(「ちむぐる」:友愛・相互扶助の精神)が大切であり、ウチナーネットワークの第一の目的は「肝心」である。ウチナーネットワークが、沖縄経済の自立発展に寄与するとしたら、それは肝心の結果であり、目的ではないが、その一方で、実際に、ウチナーネットワークを活用し、世界へビジネス展開した事例が出てきている(Ⅱ. 2. (2)参照)。

本会議の実施したアンケート結果によると、「自分が所属する団体は沖縄の自立的発展に寄与できる」と回答した者は77%、また、若年層の90%以上が前向きな回答をしている。このことはウチナーネットワークがビジネスに繋がる可能性を根拠づけるものと思われる。本会議でも議論したがウチナーネットワークの繋がりを直接的に企業活動や経済発展に結びつけることの難しさはあるものの、アンケート結果を踏まえ、文化観光スポーツ部所管の交流推進、教育庁所管の人材育成、商工労働部所管の経済戦略など、行政の横の連携を強化し、ウチナーネットワークの繋がりを沖縄経済の自立的発展に寄与する施策の創出が望まれる。

b. つなぎ方次第で大いに活用できる

ウチナーネットワークの定義は、沖縄に血縁がある人に限らず、沖縄が好きなのも含む。その広義なネットワークは「沖縄大好き、文化を通じた、ゆるっとしたネットワーク感、沖縄のしたたかさ、つなぎ次第で大いに活用できる」<sup>30</sup>というポジティブな見解がある。昨今、経済は、物流の売買によるのみならず、文化・教育とあらゆる分野での需要供給によって生じる。沖縄経済の発展のポテンシャルを、物の売買だけでなく、人や情報(人材育成、教育、文化継承)など知的市場へと拡大することに対して、ウチナーネットワークは、大いに「活用」することができるのではないか。

#### c. 活躍する海外県系人と県内企業とのきめ細かなマッチング

ウチナーネットワークは、アジアのみならず世界規模であり、国や地域の違いでビジネスの中身も違う。経営者としての海外県系人の把握、地域から信用のあるウチナー民間大使の活用、そして県内企業とのマッチングの場をもつなど、直接、必要としている人同士を繋ぐ仕組みづくりは大切である。

#### d. 沖縄のネットワークの価値観に沿ったビジネスの展開を

かつての移民先での模範、家族への送金、戦後の救済活動そして首里城復興支援に至るまで、沖縄県と海外移民コミュニティの繋がりは「金儲け」よりも「相互扶助」であった。ネットワークを活用した「ビジネス」展開も可能だが、「共助」という視点からのアプローチも、今後のグローバルな危機に備えるという「人間の安全保障」上、有効ではないだろうか。グローバルな危機に対応するような助け合いの仕組みを、その親和性が高い様々なスキーム<sup>31</sup>を活用するなどして構築できないものか。

#### e. 海外県系人ビジネスの特別窓口を県庁内に設置

これまで、海外の沖縄県系人やウチナーネットワークは、国際交流・協力の架け橋として人材育成や文化、教育分野で大きな役割を果たしてきた。今後はネットワークを活かし、諸外国・地域との交流や連携を深めながら共に発展していくことが求められている。特に沖縄経済の自立的発展において、ネットワークの活用は不可欠である。現在、ウチナーネットワークに関する事業は国際交流や人材育成、文化事業など交流推進課が担っており、海外からのビジネスに関しては、相談窓口を沖縄県産業振興公社に設けているが、ネットワークの発展と共に、新たに海外県系人に特化したビジネスの専門窓口の設置を提案する。

#### 4. 「課題④ 海外ネットワークの県内活動拠点」について

県内の活動拠点については、建設計画の正式な廃止決定の事実を踏まえつつ、本会議において、

<sup>30</sup> 第5回(令和元年11月20日)沖縄県振興審議会文化観光スポーツ部会議事録より(ダルス、平田)

<sup>31</sup> 例えばII(2)課題③a など

現実的にどのような形で、どのような機能を有する拠点を検討し得るかについて考察することには意味があると捉え、本会議によるアンケート調査の質問に含め情報収集も行い、意見交換を行った。今後、WUN 等バーチャルのプラットフォームに加え、関連事業(教育・啓発、広報を含む)に関する情報管理・アクセス等が一元的に(ワンストップで)行えるコンパクトな窓口(コンシェルジュ)機能のための実拠点が県内に備わるとすれば、ウチナーネットワークの展開・拡充の大きな支えになると思われる。

●沖縄県内に海外ネットワークの活動拠点を設置・定着させるための提案:

a. 沖縄県内にウチナーンチュ・プラットフォームの「場」を設置

WUN をウチナーネットワークのネット上のプラットフォームとして促進しつつも、一方で県内の海外ネットワーク活動拠点として、ウチナーネットワークのプラットフォームとして、情報や人が行き交い集う「場」を設置することも提案したい。5 年に 1 度開催される世界のウチナーンチュ大会の肝心を継承・発展させるためにも、人的ネットワークを繋ぎ、情報の集約と発信を行う場が重要である。具体的には、オンラインイベントなどの実施のほか、交流の総合的窓口や、移民歴史資料に関する情報のワンストップ窓口などの場にもなるような、県内の活動拠点が設置されることが望ましい。

前述のとおり、県事業として「次世代ウチナーネットワーク継承基盤構築事業」(UNC)が開始され、JICA 沖縄とも連携し、施設の一部を使用して具体的な取組が進められようとしている。同事業は、今後の展開によって、本会議で考察した 4 つの課題を網羅的かつ根本的に解決する可能性が高い。そのため、一定期間、継続して取り組むべきであるとともに、県から委託先への業務の丸投げにならないよう、県として主体的に取り組むことが重要である。例えば、数多くの関連団体や個人が、本事業・本活動拠点を支える“当事者”であると実感できる対応(県からの協力依頼、情報発信・共有)などにも留意が必要である。世代を超えた情報の共有が可能となれば、そのギャップを埋めることにも寄与するであろう。

沖縄には、移住経験者で作る沖縄ハワイ協会や沖縄ブラジル協会、沖縄カナダ協会などがあり、各国の県人会の活動は、協会を通じて情報が集まり、協会独自で派遣事業や県系子弟の支援を手がけるなど各国との架け橋となっている。WUB と WYUA などの団体は、1 ヶ国との交流を深めるのではなく、WUB は世界各地のビジネスマンと連携した国際的ビジネス・ネットワークの構築促進を目的とし、WYUA は、世界各地の県費留学・市町村等研修生 OBOG 組織と連携し、若者のネットワークの構築促進を目的として活動している。両団体のように世界各国とのネットワークを持ち、流動的に結びつく柔軟さに特徴がある海外の組織や団体に対して県が積極的に繋がることで、より安定した強靱なウチナーネットワークを築けることが期待される。

また、現物(史料・展示物など)の収集・整理についても期待する声があるが、そうなると、広い施設・スペースが必要になる。県の計画が廃止になった経緯や持続的な維持管理の観点からは、既存の関連機関による対応を従来以上に効果的・効率的に行い、県民のニーズに応えることが第一であるが、例えば、統廃合により廃校となった小学校の校舎(恩納村、今帰仁村など)の利活

用も視野に入れてもよいのではないか。

#### b. 海外の県系人社会とネットワークを持つ団体との連携を推進

ウチナーネットワークの中心は、沖縄以外にもある。例えば WUB ネットワークはハワイを中心に、世界のウチナーンチュと繋がっており、沖縄はその支部の一つである。

ネットワークは概して中心が一つであるが、ネットワークは、中心が複数存在する。ノット(結び目:団体)は、流動的に結びつく柔軟さに特徴がある。個人の主体性がより重んじられ、ネットワークが軽く、社会情勢にも敏感に反応できるのである。セキュリティ上、サーバーを各地に分散して設置するのと同様、中心となるノットが幾つもあると、より安定した強靱なウチナーネットワークを築けるのではないだろうか。

沖縄には各国県人会の情報が集まるが、「各国の県人会がどのような活動をしているのか、各国の県人会で協力し沖縄に還元できる活動がないか」<sup>32</sup>を切望する世界のウチナーンチュは多い。WUB ネットワークのような海外のノットの存在の団体に対して県が積極的に繋がること、ノットの存在の国内外の諸団体を県が支援することが必要であろう。

#### c. 県庁内の情報共有(横の連携)と情報継承(アーカイブ)の強化

沖縄県が実施(委託)したウチナーネットワークに関連する諸事業は、単年度型での実施や所管部のみで計画・実施されるケースが多く、関連事業を総合的、俯瞰的に把握している職員がいないのが実情である。職員の配置換え等にも影響されないような、組織としての情報・知見・経験の蓄積(インスティテューショナル・メモリー)が極めて重要である。そのためにも、各事業の報告書の管理、関連部課との情報共有を積極的に進めるべきである。特に、過去の貴重な情報は電子化し、アーカイブに残すとともに、インターネット上で公開し、海外からもアクセスできるような仕組み作りを提案したい。これにより、県庁の中での横の連携(情報共有)も促進され、効率的に行うことができるだけでなく、県民に対するサービス向上にも資する。できることから着手し(過去のウチナーネットワーク事業の報告書の電子化等)、取り組んでいる状況が県民に見えることも、前述の“当事者”意識を高める観点からも重要である。

### 5.全課題に共通する提言

#### a. 関心や専門性のある分野・課題で様々な繋がりをもつ

今後、ウチナーネットワークが、興味・関心や専門性のある分野・課題に沿ったグループで作られていくことも期待したい。例えば、#UCHINA1000 では、様々な専門分野で活躍するゲストによる講演がある。講演者と繋がりたい人たちがグループを作っていけば、更に話を深めたり、共通の課題に対して多様なアクターが交流し支えあう場になり、新たなアイデア、活動が生まれる可能性

<sup>32</sup> 2015年9月アンケート結果より(海外県人会-上海からの意見)

は大きい。グループがビジネスに直接関係するケースもあり得るだろう。

さらに、そのグループが、「持続可能な開発目標(SDGs)」の17のゴール(目標)の内、共通するテーマで人が集まった場合、沖縄県SDGs推進室がSDGs推進の具体的な実施体制として、プラットフォームづくりを検討しているところでもあるので、その中での位置づけ・関連付けを行うことも非常に大きな意味を持つ。すなわち、ウチナーネットワークが、沖縄の振興とともに、世界各国のSDGs推進に貢献することになる。なお、沖縄県は2020年度から「持続可能な世界のウチナーネットワーク発展モデル事業」<sup>33</sup>を実施中であるが、海外の県系人が事業(ビジネス)を提案する際にどのSDGsゴールに関係するかを明らかにさせ、審査基準にしているなど、ウチナーネットワークとビジネスとSDGsの掛け合わせを試行している<sup>34</sup>。今後、より一層の県庁内の担当部局(企画部、文化観光スポーツ部等)間の連携体制強化が求められる。

#### b. ウチナーネットワークの活用の多様なあり方を実践する

ウチナーネットワークは、その源をたどれば、戦前・戦後に海外へ渡った県民が、移住先での困難な状況の中で、互いを思いやり、故郷沖縄とのつながりを大切にしてきたことがはじまりと言える。ペルーへ移民した伊芸銀勇氏が南米各地を巡り、移民ドキュメント映画「ハワイに生きる」を上映した(1969年)というエピソードは、まさにウチナーネットワークの構築にかかる先駆的な活動である。また、戦後、経済的困窮状態にあった沖縄の復興を、海外の県人会等からの仕送りや多くの救援物資が支えてきた。2019年の首里城正殿焼失の際も、国内外の県人会等から温かい支援が数多く寄せられた。

このように、ウチナーネットワークを支えているのは、ウチナーンチュであるというアイデンティティや沖縄を思う心であるが、ウチナーネットワークの本質は、沖縄を愛する人びとが大切にしてきたちむぐくる(思いやりの心)やゆいまー(相互扶助)が、場所や時を超えてつながってきたものである、ということだろう。

こうしたウチナーネットワークの力を、国内外でのビジネス展開など、積極的に活用していくこと、いわば「攻めの活用」も、課題③で述べたとおり、期待が高まる。その一方で、ビジネス以外にも、何かあった時お互いに助け合えるような関係性は、今般の新型コロナウイルス感染症拡大のような世界的な危機が起きる現代において、人びとの暮らしや生活における「保障」として極めて重要だと考えられる。

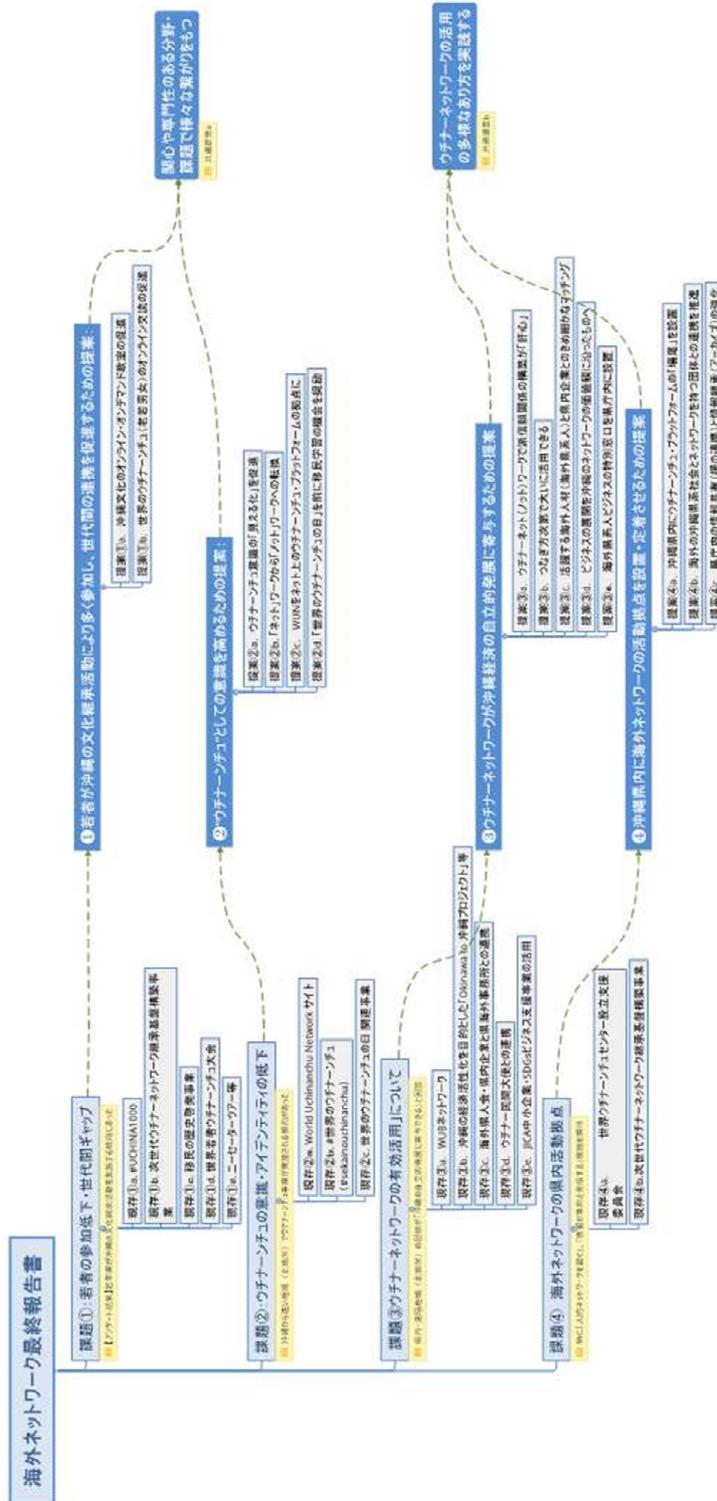
## IV. おわりに

2021年度、現行の沖縄振興計画は終了し、次の展開が2022年度から開始する。海外ウチナ

<sup>33</sup> 同事業は、世界のウチナーネットワークの多面的な活用(WYUA、WUB)に向けたモデル事業であり、モデル地区をペルーとし、同国の県人会及び若手メンバーのニーズを募った。例えば、「日本、沖縄のホスピタリティを学び、将来的に沖縄でペンションを経営しながら、ペルーからの研修生の受け入れる」、「音楽やメディア活動を通して、青少年へ国際コミュニケーションやリーダーシップを育み、沖縄とペルーの発展に貢献したい」という要望に対し、WUB 沖縄会員に協力を呼びかけ、マッチングに向けて様々な調整を実施したところ、パートナー企業として2社とのマッチングに成功した。

<sup>34</sup> 県内企業(WUB 沖縄会員企業)へのパートナーマッチングの際にも「ウチナーネットワークの継承と活用」×「SDGs」のスキームで説明。(同仕様書及び沖縄県へのヒアリングより)

ーネットワークの継承と発展は、今後 10 年の沖縄の発展にも大きな影響力が見込まれるため重要課題の一つである。人的ネットワークの先に求める経済的発展として何を指すのか。21 世紀ビジョンには共生の島の理念などが盛り込まれており、貧富の差を広げるのではなく、もう少し「優しい」資本主義の在り方として、社会貢献にもつながる「ネットワーク」の活用が求められるべきではないか。これは、沖縄県の SDGs 推進の取組にも位置付けていくことが可能であろう。



○資料編その2 アンケート調査

1 回答者全体の属性の傾向

本会議が実施したアンケート調査における回答者の「世代」、「地域」、「所属」の3つの属性について、2つの要素をそれぞれ組み合わせた回答者全体としての属性の傾向は以下のとおりである。

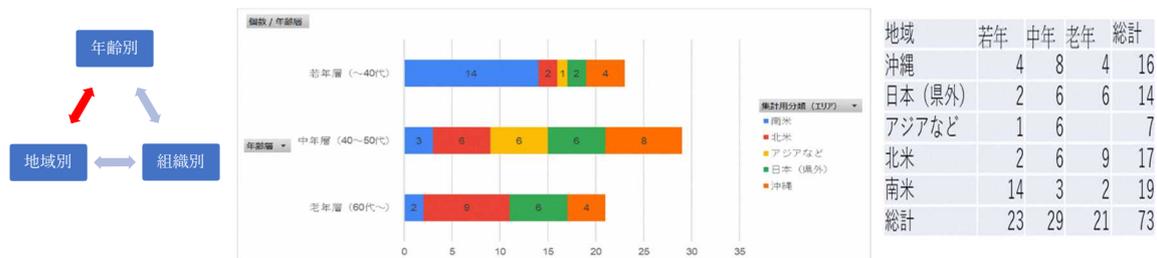


図 1-1 回答者の属性（地域・世代別）

表 1-1:地域世代別構成(n=73)

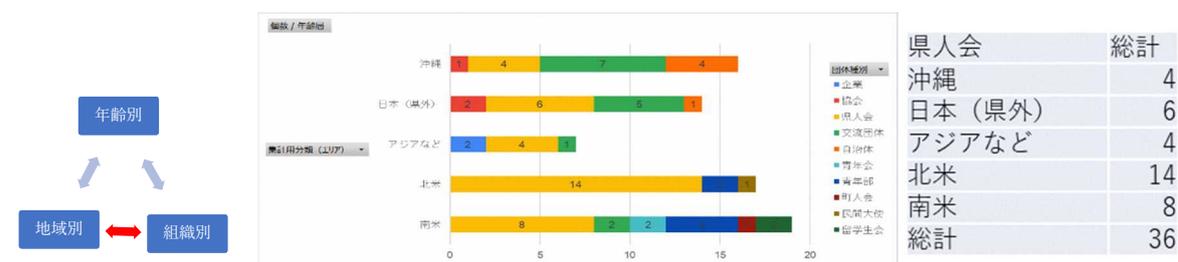


図 1-2 回答者の属性（地域・組織別）

表 1-2:地域組織別構成(n=73)

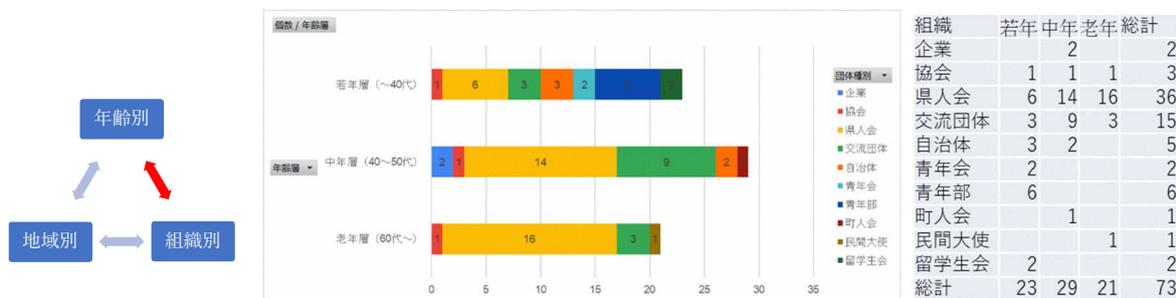


図 1-3 回答者の属性（世代・組織別）

表 1-2:世代組織別構成(n=73)

## 2 各課題ごとの属性の傾向

### (1) 沖縄の文化継承に関する活動のこれまでの実施状況について（課題①関連）

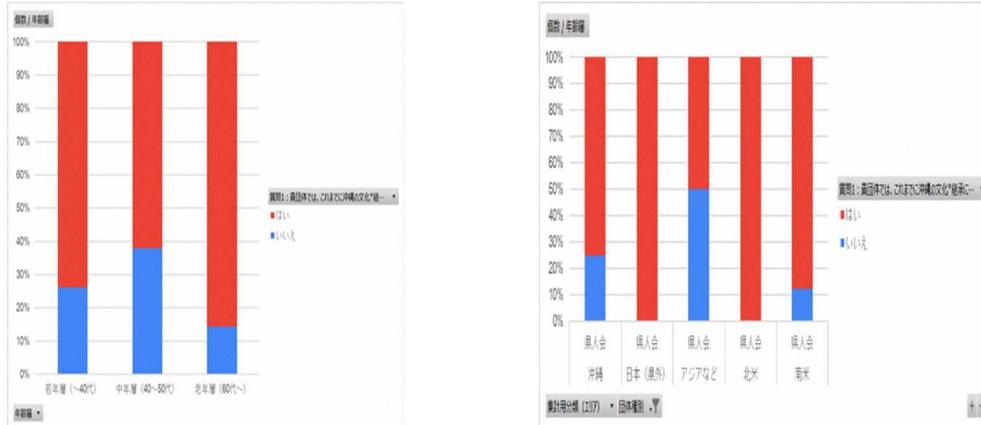


図1：沖縄文化継承の活動（左）世代別、(右)県人会・地域別

### (2) 世界のウチナンチュに関するイベント・活動実施状況について（課題②関連）

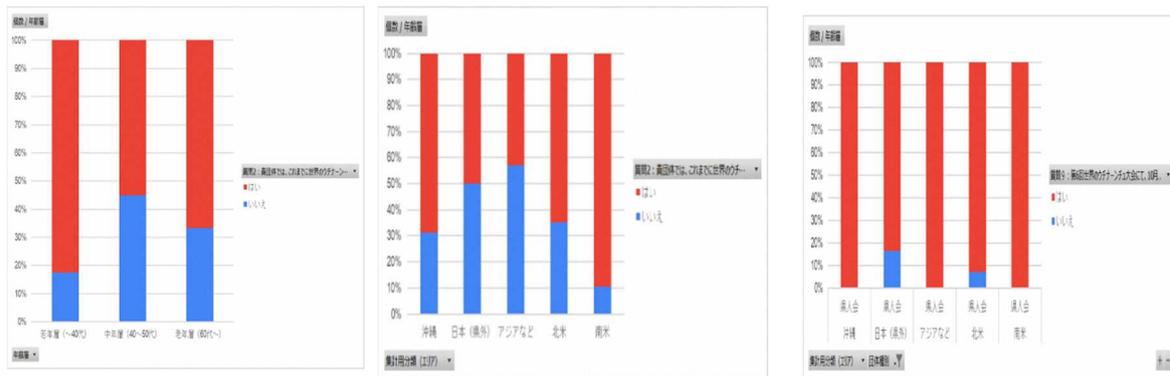


図2：世界のウチナンチュに関するイベント活動実施状況（左）世代別、(中)地域別、(右)県人会・地域別

### (3) 海外のウチナンチュとの事業・ビジネス経験について（課題③関連）

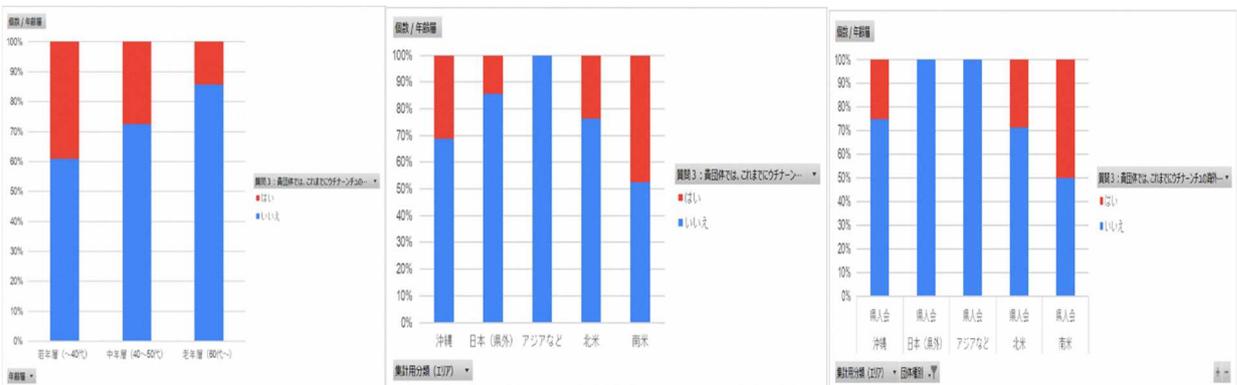


図3：海外のウチナンチュとの事業・ビジネス経験（左）世代別、(中)地域別、(右)県人会・地域別

(4)世界のウチナンチュの拠点として必要な機能について(課題④関連)

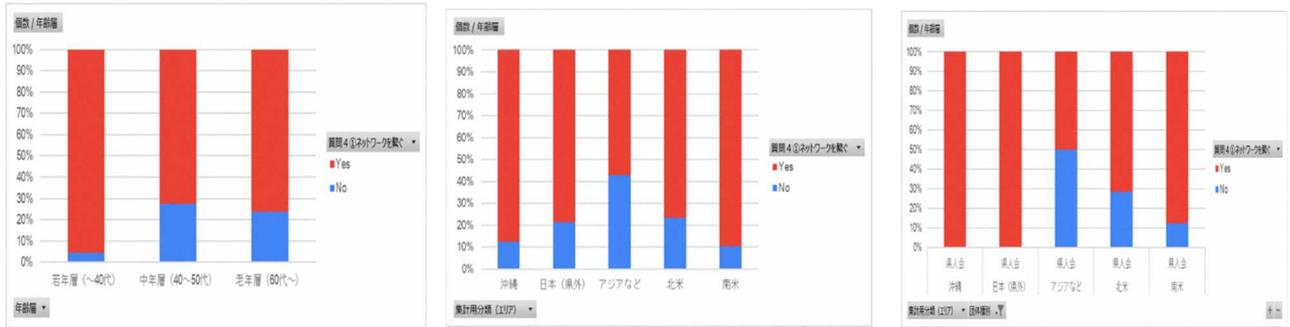


図4-1:県内拠点に人的ネットワークを繋ぐ機能を要望 (左)世代別、(中)地域別、(右)県人会・地域別

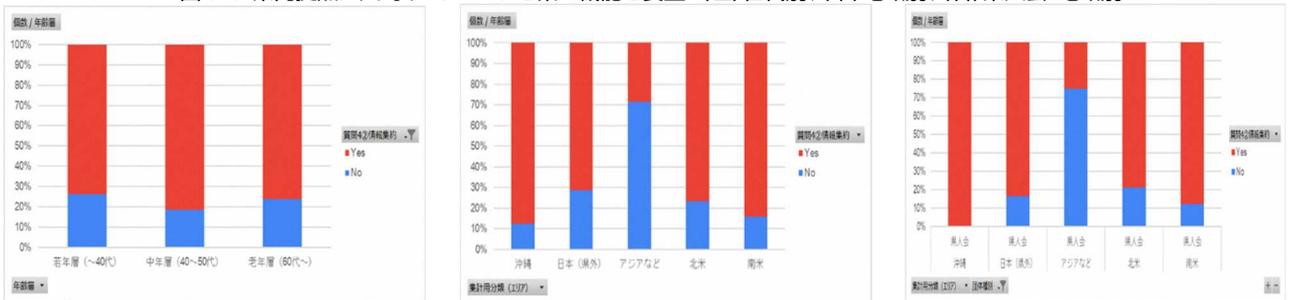


図4-2:県内拠点に情報の集約と発信の機能を要望 (左)世代別、(中)地域別、(右)県人会・地域別

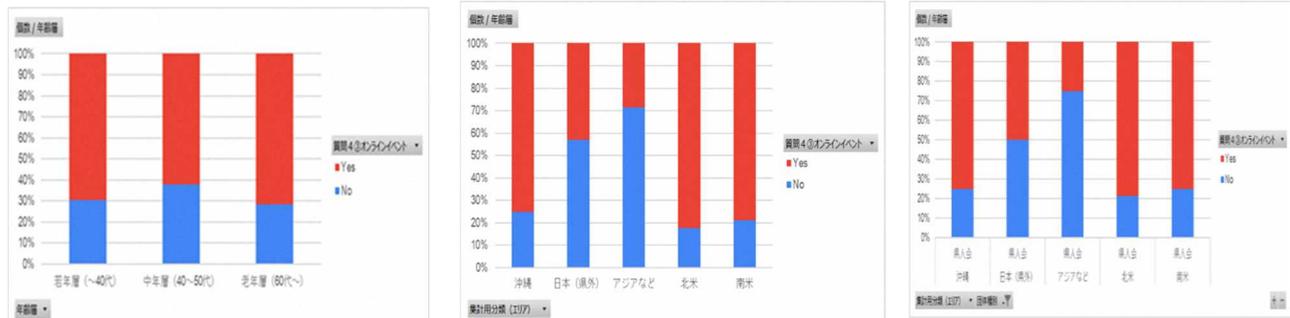


図4-3:県内拠点にオンラインイベント実施機能を要望 (左)世代別、(中)地域別、(右)県人会・地域別

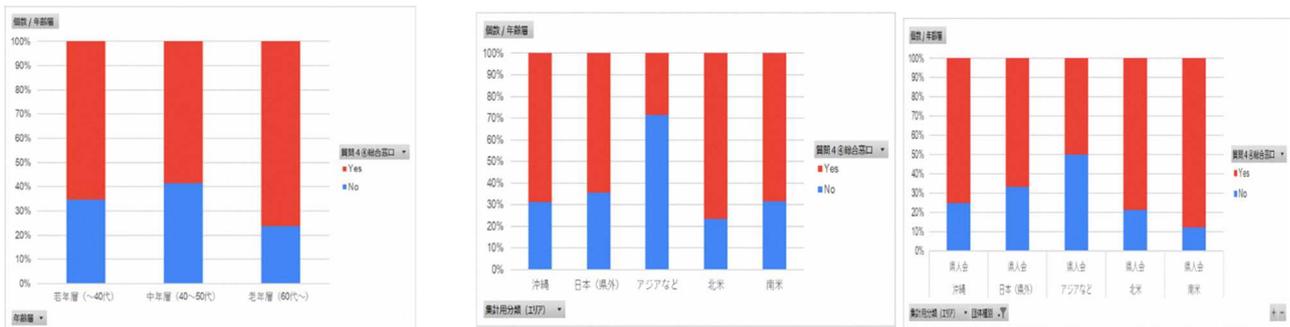


図4-4:県内拠点に交流の総合的窓口機能を要望 (左)世代別、(中)地域別、(右)県人会・地域別

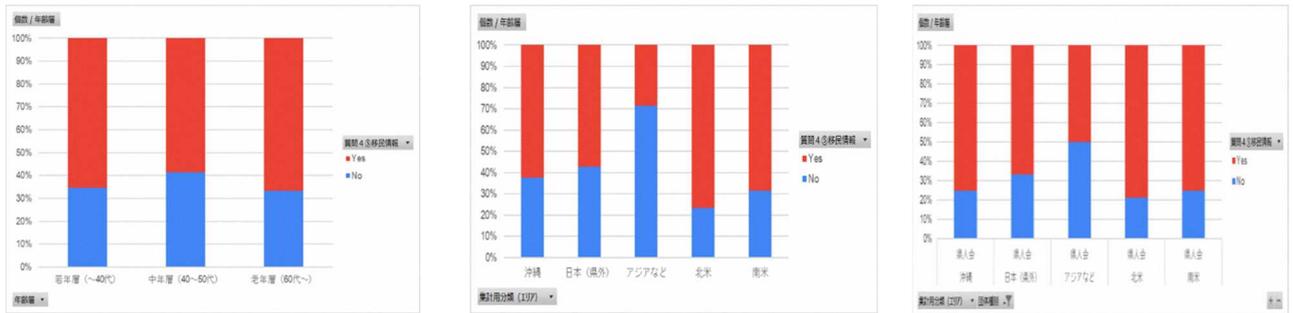


図4-5:県内拠点に移民歴史資料の情報収集機能を要望 (左)世代別、(中)地域別、(右)県人会・地域別

(5) 沖縄経済の自立的発展に向けたウチナーネットワークの寄与について(課題③関連)

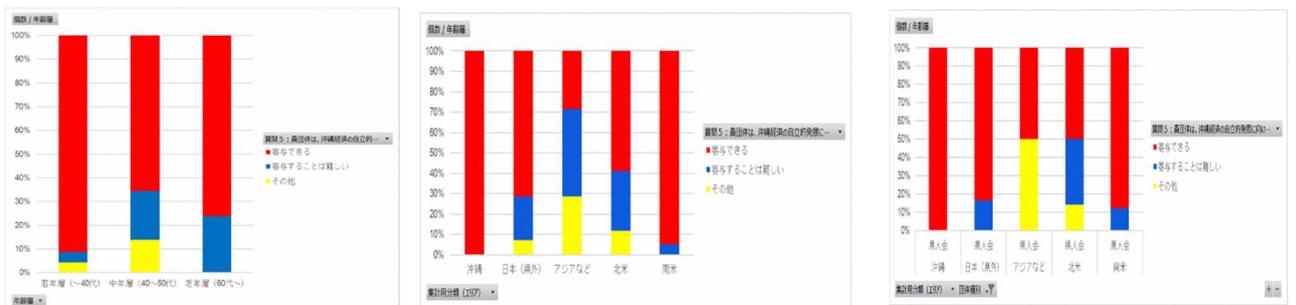


図5:貴団体は沖縄経済の自立的発展に向けてウチナーネットワークが寄与できるか (左)世代別、(中)地域別、(右)県人会・地域別

3 その他質問に関する自由記述の図式化

(1) 本会議へ期待することについて

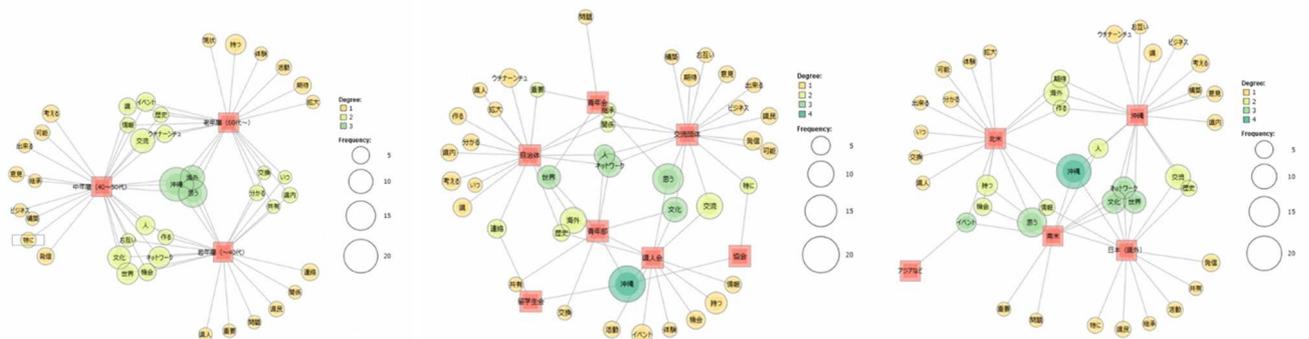


図6: 貴団体がこの『海外ネットワークに関する万国津梁会議』に期待すること(左:世代別、中:組織別、右:地域別;n=46)

(2) 第7回世界のウチナーンチュ大会の開催について

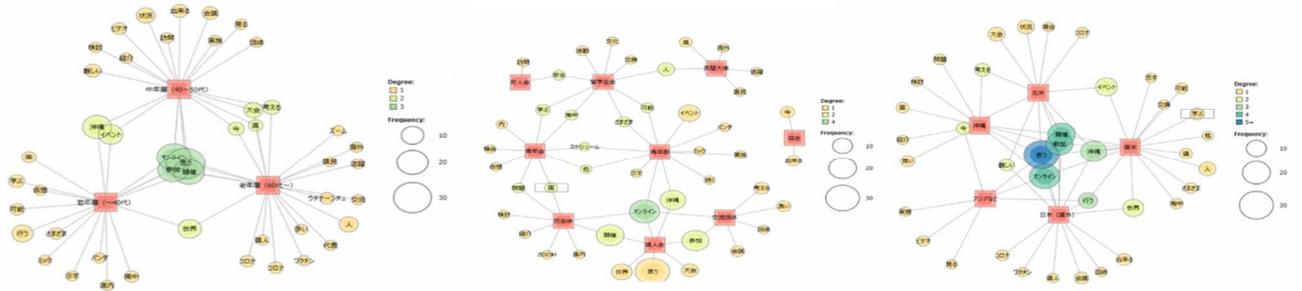


図7: 第7回世界のウチナーンチュ大会の開催形式について(左:世代別、中:組織別、右:地域別;n=62)

○資料編その3 ウチナーネットワークに関する県・市町村・関係団体の取組

(1)「世界のウチナーンチュの日」関連の取組(令和元年度)

	取組名称	実績	概要
1	世界のウチナーンチュの日に係る広報展開	10月	新聞、ラジオ、テレビ等を活用し、世界のウチナーンチュの日に係る広報活動を実施し、県民に対する世界のウチナーネットワークに関する普及を図った。
2	世界のウチナーネットワーク SNS キャンペーン	9月～10月 海外8カ国、国内4地域から延べ200以上の参加	海外、県外在住の沖縄関係者を対象に、Facebookで沖縄関係記事を掲載し、最も「いいね」を多く獲得した投稿者にプレゼントを贈るキャンペーンを開催し、SNSによる相互交流促進を図った。キャンペーン動画には知事が出演して参加呼びかけを行い、多言語化して配信したところ約1,600回の視聴があった。
3	World Youth Uchinanchu Meeting (次世代討論会)	10/12(土)@名城大学 参加者数97名 (留学生32名、県内学生等65名)	概ね40代までの県内在住県系人(留学生等)、海外交流事業経験者、学生等、次世代のウチナーネットワークを担うメンバーが一同に介し、世界のウチナーネットワークの継承と発展に関して議論を行うことで、次世代を担う県内・海外の若者の交流が図られた。
4	「世界のウチナーンチュの日」トークイベント	10/30(水) @国立劇場おきなわ 参加者数210名	世界を舞台に活躍するウチナーンチュの基調講演として、カンボジアで小児科医を務める嘉数真理子さんによる講演、及び南米等からの県系留学生等によるプレゼンテーションを実施し、県民の国際性の涵養を図るとともに、世界のウチナーネットワークの意義を理解する機会となった。
5	移民の歴史啓発事業 (演劇公演「伊芸銀勇物語」)	11/4(月・祝)※昼夜公演 @国立劇場おきなわ 参加者963名 1/19(日)※昼夜公演 @宜野座村がらまんホール 参加者約786名	海外移民としてペルーなどで活躍した宜野座村出身の伊芸銀勇氏の物語を演劇化し、県内の幅広い世代に対して分かりやすく移民の歴史の啓発を図ることが出来た。
6	沖縄文化芸能指導者派遣事業 ①ロンドン県人会 (Japan祭り) ②シドニー県人会(沖縄くくる祭) ③ペルー県人会(琉球ダイナミック)	①9/29 来場者約5万名 ②11/10 来場者約250名 ③2/16 来場者約300名	海外県人会が主体となって取り組むイベント等に対して沖縄から芸能指導者を派遣し、エイサー、琉舞、三線等を指導することで、継続的な県人会活動の支援と現地における沖縄のソフトパワー発信に取り組んだ。

	取組名称	実績	概要
7	移民の歴史啓発事業	10月～1月 各市町村にて実施	移民の歴史等を紹介する「ウチナーネットワーク啓発パネル」を作成し、貸与希望のあった県内15の市町村へ貸与してパネル展開催を支援することで、より多くの県民が移民の歴史等を学ぶ機会拡大に取り組んだ。
8	レッツスタディ！ウチナーネットワーク指導者養成講座	①8/10(土) @JICA 沖縄センター 参加者数 18名 ②9/16(月・祝) @県立図書館 参加者数 44名	ウチナーネットワークの重要性や、移民の歴史、県系人の移住地での生活・文化に関する講座等を担う指導者を養成するための講座を開催。今年度は教員向けと一般向けの講座を実施した。
9	レッツスタディ！ウチナーネットワーク出前講座	8月～2月末まで実施 講座実施数:25回 参加者数:1,149名	県内小中高校、大学、教育関係機関や市町村でのイベント等において、ウチナーネットワークの重要性や、移民の歴史、県系人の移住地での生活・文化に関する出前講座を実施した。
10	ウチナーネットワーク啓発ツアー	1/19(日) 宜野座村 参加者数:29名	移民の歴史を学べる施設や名所巡り等を行うことで、地域に根ざした移民の歴史学習を促進する。今回は宜野座村と連携して実施し、ツアーとあわせて、伊芸銀勇氏の移民劇を鑑賞。

(県関係機関)

	県関係機関	実施時期	概要
1	県立博物館・美術館	①10/16～10/27 ②10/22～12/29	「世界のウチナーンチュー移民の記録」展示 ・①パネル展は10月16日～10月27日 ・②常設展は10月22日～12月29日
2	県公文書館	①10/19(土) ②10月～11月	①「移民は生きる」企画の実施(県系移民関連の講演、比嘉太郎監督の「ハワイに生きる」上映)(102人参加) ②比嘉太郎パネル展の開催
3	県立図書館	①10/20(日) ②10/9～11/4 ③常設	①世界のウチナーンチューの日トークイベント(66人参加) ②戦後の沖縄を救った チムグクルの物語り(展示) ③移民の歴史啓発パネル展、移民ルーツ検索サービス

## (市町村)

	市町村	実施時期	概要
1	那覇市	①11/1-11/8 ②各イベント日	①移民の歴史啓発パネル展の開催 @本庁舎1F ロビー ②市受入の南米研修生を平和通り会イベント、若狭公民館での南米の料理教室、バスツアーへ派遣する。
2	宜野湾市	11/1-11/28	移民の歴史啓発パネル展の開催 11/1(金)～11/10(日)@宜野湾市民図書館 1階 11/22(金)～11/28(木)@宜野湾市役所本庁 1階玄関ロビー
3	浦添市	①10/30～11/29 ②10月中～下旬	①「浦添市の移民」展 @浦添市立図書館 2階エレベーターホール ②出前講座(対象:琉球大学で移民論を学ぶ学生や、市立小学校の児童)
4	名護市	①10/30(水) 15:00-18:00 ②10/1-10/31	①「名護のチビラシムンでウトウイムチ」講演会 @名護市労働福祉センター ②移民の歴史啓発パネル展の開催(10月) @市庁舎ロビー、図書館
5	糸満市	10/31-11/7	移民の歴史啓発パネル展の開催 @市役所1F ロビー
6	沖縄市	①9/30-10/31 ②10/17(木) ③10/26(土) ④10/30(水)	①移民の歴史啓発パネル展の開催 @市役所 1F 市民ホール 10/4～ @「ザ インターナショナル」 ②ランチタイムミニコンサート&トークショー @沖縄市役所 1F 待合ホール ③世界のウチナンチュの日フェスティバル in 沖縄市 ラテン☆スペシャル @パルミラ通り ④ 市内小学校から世界へ～アルゼンチンとペルーの日系社会の子供たちとつながろう～ @市内小学校
7	豊見城市	10/15-10/31 豊見城市役所1階 市民交流スペース	・移民の歴史啓発パネル展の開催 (主にハワイ) ・海外移住者研修生の紹介 (H24～R1)コーナー設置
8	東村	10月-11月	移民の歴史啓発パネル展の開催 @村民ホール
9	今帰仁村	10/20～12月末	・移民の歴史啓発パネル展の開催、今帰仁村の移民関係資料展示 ・平良新助の紙芝居(中学生が作成) @歴史文化センター談話室
10	恩納村	10/30 前後 1週間	世界のウチナンチュ移民に関するパネル展 @村役場1階ロビー

	市町村	実施時期	概要
11	金武町	12/5(木)	金武町移民の日イベントを開催 ・ハワイ移民に関する演劇・南米料理試食 ・移民国の民族衣装体験・移民の歴史啓発パネル展 @中央公民館中ホール
12	読谷村	10/5~10/31	移民の歴史啓発パネル展の開催 @世界遺産座喜味城跡ユンタンザミュージアム
13	嘉手納町	10/25~11/1	「世界のウチナーンチュの日パネル展」を開催 @嘉手納町役場1階エントランスホール
14	北中城村	10/31(木)	・南米県系研修生による現地村人会の紹介や自国の文化(歌等)の紹介を行う予定 ・移民の歴史啓発パネル展の開催
15	西原町	10/21-11/1	移民の歴史啓発パネル展の開催 @町民交流センター町民ギャラリー
16	久米島町	12月	移民の歴史啓発パネル展の開催 @町役場仲里庁舎
17	八重瀬町	10/8-11/5	移民の歴史啓発パネル展の開催、八重瀬町の移民に関する取組の紹介ロビー @南の駅やえせ @八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館ロビー

## (関係団体)

	取組名称	実施時期	概要、主催者情報
1	第5回世界ウチナーンチュ学生サミット	10/13(日) 13:30-19:00 @名桜大学	ウチナーンチュ・アイデンティに関する意見交換会や留学生による各国文化等に関するパフォーマンスを実施。(主催)名桜大学国際交流センター
2	8mm フィルム／移民編 戦後初、ハワイから集団で里帰り上映会(主催)沖縄アーカイブ研究所、Punta Ponga	10/20(日)13:00-15:00 @Punta Ponga(那覇市牧志 1-11-11)	戦後初のハワイからの集団里帰りを記録した 8mm フィルムの上映等
3	世界のウチナーンチュフェスティバルin沖縄市～ラテン☆スペシャル～(主催)KIP	10/26(土) 15:00-21:30 @沖縄市パルミラ通り	ラテンのダンスショー、ストリートライブ、ダンスの体験レッスンあり！移民の歴史やウチナーネットワークに関するパネル展や講座も開催！
4	WUB 沖縄第 2 回アジア会議(主催)WUB 沖縄	10/28(月) 一部、二部 14:00-17:00、懇親会 18:10-19:30	「ハワイ VS 沖縄」をテーマに松浦大氏(東洋経済記者)の講演や、OCVB 下地会長、OTS 東代表取締役会長を交えシンポジウムを開催。@ハーバービュー 2 階「彩海の間」
5	「お帰りなさい世界のウチナーンチュ」(主催)那覇市平和通商店街振興組合	10/30(水)14:00-16:30 @那覇市平和通り商店街「商人塾」	世界各地の芸能やクイズ、沖縄の芸能、ビンゴゲーム等が楽しめるイベント。
6	おきなわ国際協力・交流フェスティバル(主催)JICA 沖縄	11/2(土),3(日) @JICA 沖縄センター	多国籍屋台、世界の歌と踊り、JICA 研修員との交流や展示等が楽しめるイベントを開催。
7	「世界のうちなーんちゅについて学ぼう」(主催)ガールスカウト沖縄県連盟浦添第1団	11/2(土) @まなびフェスタ浦添 2019	まなびフェスタ浦添 2019 に「世界のうちなーんちゅについて学ぼう」のタイトルで出展。
8	比嘉太郎ふるさとシンポジウム(主催)比嘉太郎会	10/6(日)14:00-16:00 @北中城村立中央公民館	沖縄戦中・戦後に多くの沖縄県民の命を救った、ハワイ2世の比嘉太郎氏を語るシンポジウムを開催。
9	海ぶたマルシェ (主催)ハワイ豚沖縄 550・うるマルシェ	9/28(土)	海豚の歴史を後世に継承したい！海豚に関するステージや豚グルメが楽しめるイベント。
10	世界のウチナーンチュ直伝の南米!南米の家庭料理教室(主催)那覇市若狭公民館	9/26~10/17 毎週木曜日	世界のウチナーンチュ直伝の南米(ポリビア、アルゼンチン、ペルー、ブラジル)の家庭料理教室を開催。

## (海外県人会)

	国	海外県人会名	イベント名
1	アメリカ	アトランタ沖縄県人会	Japan Festa アトランタ出演
2	イギリス	ロンドン沖縄県人会	Japan matsuri 出演(エイサーワークショップ)
3	アメリカ	ペンサコーラ沖縄県人会	県人会ピクニック
4	アメリカ	スペースコースト沖縄県人会	世界のうちなーんちゅの日(ゆいまーる ピクニック)
5	アメリカ	ユタ州沖縄県人会	世界のウチナーンチュの日お祝いイベント
6	アメリカ	フロリダ沖縄県人会	沖縄デー&カジマヤー祝
7	バルー	バルー沖縄県人会	ウチナー演芸会
8	中国	在台湾沖縄県人会	県人会(世界のウチナーンチュ大会向け写真撮影)
9	アメリカ	インディアナ県人会	世界のウチナーンチュの日への取組
10	アメリカ	シカゴ県人会	沖縄県人会・ちむどんどん コラボの『結伝』
11	アメリカ	ハワイ連合会	「世界のウチナーンチュの日」2019
12	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会	ウチナンチュの日 2019
13	中国	上海沖縄県人会	沖縄企業×日本人留学生等交流会
14	ブラジル	ブラジル県人会	ウチナーンチュの日
15	アメリカ	フェイエットビル沖縄県人会	ウチナーンチュの日を祝うイベント
16	アメリカ	ハワイ沖縄県人会	ウチナーンチュの日
17	アメリカ	北米沖縄県人会	ウチナーンチュの日ディナー
18	ブラジル	カンボグランデ	民謡カラオケフェスティバル
19	オーストラリア	シドニー沖縄県人会	沖縄くる祭
20	中国	福建沖縄県人会	福建省大学エイサーチャンピオンシップ大会三線出演

(2) 県のウチナーネットワーク関連事業

	事業名	事業概要	令和2年度実績
1	世界のウチナーネットワーク強化推進事業	第6回世界のウチナーンチュ大会において「世界のウチナーンチュの日」が10月30日と制定されたことを受けて、同日を世界中で沖縄の風土や伝統文化等に想いを馳せる象徴的な日として定着させ、ウチナーネットワークの継承・発展をより効果的に進めることを目的として実施。	1 「世界のウチナーンチュの日」オンライントークイベント 2 「世界のウチナーンチュの日」の広報活動 3 WEB等での情報発信事業 4 持続可能な世界のウチナーネットワーク発展モデル事業 5 沖縄文化芸能派遣事業 6 レッツスタディー！ウチナーネットワーク事業
2	ウチナージュニアスター事業	海外県系人子弟を沖縄県に招待し、県内外の生徒と沖縄の自然や文化、歴史等交流体験プログラムを実施することで、将来のウチナーネットワークの構築を図る。	新型コロナウイルス感染症の影響により海外県系人子弟を招待して事業を実施することが困難になったため、ウチナーネットワークや県系移民について学習できる教材を英語・スペイン語に翻訳し、国内外の沖縄県人会に配付した。
3	海邦養秀ネットワーク構築事業	世界各国の県系人及び沖縄県の若い世代間のホームステイを通じた相互交流を促進し、「ウチナーネットワーク」を担う次世代を育成する。	県内の高・大学生10人をカンボグランデ(ブラジル)の沖縄県人会へ派遣し、現地でのホームステイや日系企業訪問、若い県系人との交流を図る。新型コロナウイルス感染症の影響により海外渡航が困難となったため、事業を中止した。
4	ウチナーンチュ子弟等留学生受入事業	沖縄県出身移住者子弟及びアジア諸国等から優秀な人物を選抜し、県内の大学や企業、伝統芸能修得機関等で就学・研修させ、沖縄の歴史・文化・習慣の理解や、県内企業での実務経験、県民との交流を深め、将来的に本県と出身国とのネットワークの架け橋となる人材を育成し、もって、本件との国際交流に寄与せしめることを目的とする。	新型コロナウイルス感染症の影響により海外渡航が困難となったため、令和2年度受入事業を中止 ・留学生受入業務 ・沖縄県出身移住者子弟(留学生・受入先国人数) アメリカ1名、カナダ1名、ブラジル1名、アルゼンチン2名、ペルー1名、ボリビア3名、台湾1名、中国1名韓国1名計12名
5	ウチナー民間大使活動助成事業	各民間大使による助成事業を通じて沖縄のPRとネットワーク構築に貢献、民間大使を核としたウチナーネットワークの継承及び発展を図る。	ウチナー民間大使30カ国1地域、263名 ウチナー民間大使活動助成事業の実施
6	ウチナーネットワークサポート育成事業	本県が、世界のウチナーンチュ及びアジア・太平洋をはじめとする世界における国際交流の活動拠点をなすため、ウチナーネットワークの重要な担い手であるウチナーンチュ子弟留学生をはじめとする県交流事業のOB・OGを支援する。	OB・OGのネットワーク構築を推進する活動や世界のウチナーンチュの日に関連する事業に取り組む2団体(名護市、公益社団法人青年海外協力協会沖縄事務所)に対して助成金を交付した。
7	沖縄福建友好県省交流事業	福建省と沖縄は、友好県省を締結し、交流を行っている。これまで実施してきた交流の拡大及び新たな交流事業の展開を図るべく、定期的に福建省政府等と意見交換を行い、強固なネットワークを構築する。	・令和2年5月、福建省と沖縄県側のWEB会議を開催し、コロナ禍における対応等に係る情報交換等を行った。 ・令和2年11月にオンラインで開催された第6回福建省大学エイサー大会(沖縄県福州事務所主催)において、福建省外事弁公室とともに、挨拶文の送付等を実施した。
8	友愛交流構築事業	沖縄県と地域間交流を推進している地域(兵庫県・福島県)と、様々な分野における相互理解の促進及び交流ネットワークを構築する人材を育成する事業を実施するとともに、国内における新たな地域間交流を推進することを目的とし、本県と兵庫県の青年、本県と福島県の小学生の相互交流を行う。	【兵庫県との交流】 自然体験や歴史にふれるオンラインでの交流会を通じて相互の交流を深めた。(本県からの参加者は10月は6名、2月は11名)【福島県との交流】 1月に本県からさとうきび親善大使(小学生)を福島県に派遣し、2月に福島県の雪だるま親善大使(小学生)を受け入れる。
9	海外移住記念事業費	記念式典等に県三役等が出席し県系人を激励すると共に、県人会活動の活性化、移住先国との関係強化及び世界のウチナーネットワークの強化を図るための経費	・式典への三役等出席旅費 ・記念事業にかかる諸経費 令和2年度は、コロナ禍のため「ハワイ沖縄県人移住120年記念式典」は中止となったが、「バーチャルフェスティバル」をオンライン開催し、知事からのビデオメッセージをハワイ沖縄連合会へ送付した。
10	友愛交流構築事業	沖縄県と地域間交流を推進している地域(兵庫県・福島県)と、様々な分野における相互理解の促進及び交流ネットワークを構築する人材を育成する事業を実施するとともに、国内における新たな地域間交流を推進することを目的とし、本県と兵庫県の青年、本県と福島県の小学生の相互交流を行う。	【兵庫県との交流】 自然体験や歴史にふれるオンラインでの交流会を通じて相互の交流を深めた。(本県からの参加者は10月は6名、2月は11名)【福島県との交流】 1月に本県からさとうきび親善大使(小学生)を福島県に派遣し、2月に福島県の雪だるま親善大使(小学生)を受け入れる。

(3)市町村の人材育成関連事業(令和元年度市町村の国際交流・協力事業)

No	市町村名	担当部局・課	事業名	事業区分		事業内容・目的	国名	対象 (子弟・姉妹都市・その他)	人数
				受入	派遣				
1	那覇市	総務部 平和交流・男女 参画課	福州市友好都市 交流事業	受入	○	那覇市、福州市の児童生徒が毎年交互に訪問し、学校カリキュラムへの参加や文化交流、ホームステイを通して相互理解を深めた。	中国	友好都市	20
				派遣					
				その他					
2	那覇市	総務部 平和交流・男女 参画課	海外移住那覇市 出身者研修 受入事業	受入	○	ブラジル、ボリビアの那覇市民会の子弟を2ヶ月間研修生として受け入れた。ルーツであるふるさと那覇市での生活を通して市民との交流を深めるとともに、日本語研修、企業研修、文化芸能などの各種研修を行った。	ブラジル	その他	1
				派遣			ボリビア	その他	1
				その他					
3	宜野湾市	企画部 市民協働 推進課	宜野湾市海外 留学生派遣事 業	受入		中国に対する理解を深めると共に、国際的視野を持った人材の育成を図ることを目的に、本市と海外友好都市提携先である中国福建省廈門市にある大学に1年間留学生を派遣する。	中国	友好都市	1
				派遣	○				
				その他					
4	宜野湾市	教育委員 会 指導部 指導課	宜野湾市中学 校短期海外留 学 派遣事業	受入		宜野湾市教育委員会では、市の教育目標「創造性・国際性に富む人材の育成」を図るべく、平成16年度から英語教育特区認定を受け、小中学校における英語教育の充実・推進に努めている。その一環として、本事業は、市在住の中学生に海外での短期留学の機会を与え、生活体験を通じた異文化理解と実践的コミュニケーション能力の向上を図り、国際性を養い、世界に翔く「宜野湾っ子」の育成に資する。	米国	その他	10
				派遣	○				
				その他					
5	宜野湾市	教育委員 会 指導部 指導課	宜野湾市 小中英語支援 員	受入		市内小中学校の英語指導助手として、児童生徒が英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成と国際理解を深めるなど、英語教育の充実を図る。	アメリカ	その他	6
				派遣	○		フィリピン	その他	6
				その他			その他	その他	10
6	石垣市	平和協働推進課	姉妹都市カウ アイ郡中学生 派遣事業	受入		石垣市と姉妹都市関係にあるハワイ州カウアイ郡への本市中学生の派遣をとおし、次代を担う少年少女に異文化交流と体験学習を深めさせ、国際性豊かな広い視野をもった人材育成を図る。 (中学生3名、引率1名)		姉妹	4
				派遣	○				
				その他					
7	石垣市	教育部 いきいき 学び課	石垣市小学 生・ 中学生 教育交流事業	受入	○	石垣市と本市の姉妹都市である台湾蘇澳鎮の次代を担う両市の小・中学生が学校訪問や民泊交流、体験学習等を通して、親善交流と相互理解を深めるとともに、将来、国内外で活躍できる人材の育成に寄与する。	台湾	姉妹	30
				派遣	○		台湾	姉妹	30
				その他					
8	石垣市	平和協働推進課	台湾留学 希望者のた めの 中国語コース	受入		石垣市は、平成21年度より台北教育大学と留学協定を締結し、人材育成を進めてきました。この留学制度活用の促進、また円滑な留学への支援を目的として、中国語の事前研修を行います。	台湾		
				派遣					
				その他	○				
9	石垣市	平和協働推進課	台北教育大学 留学にかかる 推薦状発行	受入		歴史的に八重山と関係の深い台湾や中国との友好関係を構築し、行政やスポーツ・文化面における交流推進の重要性は高く、行政及び民間活動の分野で中国語を駆使して仕事のできる人材育成を目的に現地の名門大学での留学制度を設ける。	台湾		
				派遣					
				その他	○				
10	石垣市	平和協働推進課	英語スピーチコンテスト	受入		感受性豊かで多感な中学生の時にグローバルな視点を培い、将来、国際的に活躍する人材を輩出することを目的とする。	—		
				派遣					
				その他	○				
11	石垣市	平和協働推進課	多文化交流 ゆんたく会	受入		石垣市在住外国人及び地域住民を対象とした多文化交流ゆんたく会を開催し、多文化への理解につなげる。ゆんたく会は、在住外国人が日常生活での困り事や問題点などを話し合い、また石垣市のイベント等の広報や相談窓口等の情報提供をし、多文化ラウンジ開設に向けて意見交換をする。言葉の壁を越え、相互理解を深めることを目的とする。 [参加者]日本人19名、外国人9名 合計28名 台湾(4)韓国(1)中国(1)シンガポール(1)フィリピン(1)インドネシア(1)			
				派遣					
				その他	○				

No	市町村名	担当部局・課	事業名	事業区分		事業内容・目的	国名	対象 (子弟・姉妹都市・その他)	人数
12	浦添市	企画部・国際交流課	浦添市南米移住者子弟研修生受入事業	受入	○	戦前戦後を通して南米へ移住した浦添市出身者やその子弟とのネットワークを強化するため、浦添市出身者子弟を招聘し、日本語研修、文化研修を通して、本市及び本件と移住先国との友好親善、沖縄文化の振興・発展に貢献しうる人材を育成する。	ブラジル	その他	1
				派遣			ペルー	その他	1
				その他					
13	浦添市	企画部・国際交流課	外国青年招致事業	受入		JETプログラムによる国際交流員としての外国青年を招致し、市民と国際交流の進展を図り、本市の国際化の促進に資する。	アメリカ合衆国	その他	1
				派遣					
				その他	○				
14	浦添市	指導部・こども青少年課	中国泉州市・浦添市小中学生交流事業	受入		この事業は、21世紀の国際社会に生きる浦添市の小中学生が、中国の泉州市等を訪問し、現地視察及び小中学生との交流を通して、国際的視野を広め、豊かな人間形成に役立てることを主な目的として実施する。	中国	友好都市	21
				派遣	○				
				その他					
15	浦添市	指導部・学校教育課	外国語指導事業	受入		英語指導助手を各小中学校に派遣し、英語指導等に活用することにより、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上を図るとともに異文化を理解し国際化に対応できる広い視野を持った児童生徒の育成を図る。	アメリカ	その他	4
				派遣			イギリス	その他	1
				その他	○		スロバキア	その他	1
							フィリピン	その他	2
							ネパール	その他	1
16	浦添市	指導部・学校教育課	中学生海外短期留学生派遣事業	受入		・小中連携した英語教育推進の一環で、夏休み期間中に本市中学生を海外に派遣する。 ・海外で学習する機会を与えて「だこの都市・浦添市」に誇りを持ち人間性豊かで、国際社会に適応する資質・能力を持つ、創造性、国際性に富む人材の育成を図る。	アメリカ	その他	5
				派遣	○				
				その他					
17	名護市	総務課	名護市海外移住者子弟等研修生受入事業	受入	○	名護市出身の海外移住者の子弟から研修生を選抜し、沖縄県内において日本語及び日本文化理解促進のための研修を実施し、市民交流を行うことで、本市と研修生派遣国との国際交流に寄与する人材育成を図る。	アルゼンチン	子弟	1
				派遣			ペルー	子弟	1
				その他					
18	糸満市	教育委員会 総務課	糸満市人材育成海外ホームステイ事業	受入		糸満市中学生英語ストーリーコンテストにおいて、最優秀及び優秀賞を受賞した生徒を対象としている海外ホームステイ事業。友好都市である米国ロサンゼルス州レンドビーチ市の語学学校にて語学研修を行いながら、学校から紹介のある家庭へそれぞれホームステイし、日常会話程度の英語のやり取りがある程度できるようにする。	米国	友好都市	2
				派遣	○				
				その他					
19	沖縄市	経済文化 文化芸術課	沖縄市海外移住者子弟研修生受入事業	受入	○	沖縄市出身の海外移住者子弟の中から優秀な人材を選抜して、県内において郷土文化を重点的に学び、また、日本の生活・習慣等の理解を促進し、市民及び県民との交流を深める中から、移住先国の発展に貢献しうる人材を育成し、本市と移住先との国際交流を図り、次世代への文化継承、ウチナーネットワークの構築、国際親善に寄与せしめることを目的とする。	アルゼンチン	子弟	1
				派遣			ペルー	子弟	1
				その他					
20	豊見城市	教育部 生涯学習課	青少年国際交流事業	受入		市内在住の中学生をハワイ州へ派遣し、英語環境で生活することを通して、英語に対する興味関心を更に高め、主体的、意欲的に学習する機会を提供して、次代を担う国際的な人材を育成する。	アメリカ	その他	17
				派遣	○				
				その他					
21	豊見城市	総務企画部 商工観光課 (現産業振興課)	海外移住者子弟研修生受入事業	受入	○	豊見城市出身の海外移住者子弟の中から、優秀な人材を選考し、県内において日本語及び沖縄の文化や技術等を習得する並びに市民との交流を深める中から、移住先の発展に貢献し得る人材を育成するとともに、市民の国際交流思想の高揚及び移住国と豊見城市の友好親善に資することを目的とする。	アメリカ	子弟	1
				派遣					
				その他					
22	豊見城市	教育部 学校教育課	外国人英語講師配置状況	受入		市内中学校に外国人英語講師を配置し、外国人との実践的なコミュニケーションの機会を作ることで、生徒の英語学習に対する興味関心を十分に引き出し、国際化社会へ対応できる人材の育成を目的とする。	フィジー→アメリカ	その他	1
				派遣			ジャマイカ	その他	1
				その他	○		ネパール	その他	1

No	市町村名	担当部局・課	事業名	事業区分		事業内容・目的	国名	対象 (子弟・姉妹都市・その他)	人数
23	うるま市	市民部 市民協働課	海外移住者子弟研修生受入事業	受入	○	市出身の海外移住先国から優秀な人材を研修生として受入れ、沖縄の文化・伝統芸能や日本語研修を実施する。	バレー	子弟	1
				派遣					
				その他					
24	うるま市	指導部指導課	海外短期留学派遣事業	受入		うるま市立中学校の生徒が、現地の家庭に家族の一員として暮らしながら、語学や生活・文化等いわゆる異文化理解に努めると同時に、国際交流を通して沖縄の文化、歴史、伝統等について改めて考えるよい機会とし、国際性豊かで将来郷土に尽くす有能な人材育成を目的とする。	アメリカ	フロンティア州他	
				派遣	○				
				その他					
25	うるま市	指導部指導課	小学校英語指導助手派遣事業	受入		国際性豊かな地域振興に向け、国際的視野を持ち外国語によるコミュニケーション能力を備えた人材育成を図るため、小学校に外国人英語助手の派遣を実施する。	アメリカ	その他	4
				派遣			フィリピン	その他	1
				その他	○		パキスタン他	その他	3
26	うるま市	指導部指導課	中学校英語指導助手派遣事業	受入		国際性豊かな地域振興に向け、国際的視野を持ち外国語によるコミュニケーション能力を備えた人材育成を図るため、中学校に外国人英語助手の派遣を実施する。	アメリカ	その他	3
				派遣			ジャマイカ	その他	1
				その他	○		日本	その他	1
27	宮古島市	生涯学習部 生涯学習振興課	宮古島市海外派遣ホームステイ派遣事業	受入		宮古島市内の中高生をアメリカ合衆国ハワイ州・オアフ島・マウイ島に派遣。オアフ島・マウイ島での生活を体験しながら、平和学習や異文化について学習する。	アメリカ	姉妹都市	15
				派遣	○				
				その他					
28	宮古島市	生涯学習部 中央公民館	台湾国際交流事業	受入		台湾漢口國民中学と市立下地中学校が姉妹校として交流することにより、国際性豊かな視野を広げ、異国文化や郷土文化を尊重する感性や教養を育むことを目的に、相互にホームステイを実施する。	台湾	姉妹校	派遣14
				派遣	○				
				その他					
29	南城市	企画部 まちづくり推進課	南城市海外移住者子弟研修生受入事業	受入	◎	南城市出身の海外移住者の子弟を研修生として3ヶ月間受け入れし、本県並びに本市の歴史・文化、技術等の習得及び市民との交流を通じて社会の発展に寄与する人材を共に育成するとともに、国際交流思想の高揚並びにこれら移住国等と南城市の友好親善に資する交流の懸け橋となる人材の育成を目的に実施します。	ブラジル	子弟	1名
				派遣					
				その他					
30	南城市	企画部 企画課	JICA草の根技術協力事業	受入	○	本市とNPO法人レキオウィングスが、JICA草の根技術協力事業の中で、南城市モデルを活用したビクトリアス市アグリビジネス／アグリエコツーリズム強化プロジェクト（フェーズⅠ：2014年10月～2017年3月）、南城市・ビクトリアス市の自立的発展のための地域活性化強化プロジェクト（フェーズⅡ：2017年3月～2020年3月）を実施し、アグリエコツーリズムを市の最優先施策に位置付けてまちづくりを進めるビクトリアス市の発展に寄与するもの。その中で、専門家派遣や研修員受入を行っている。	フィリピン	その他	10
				派遣	○		フィリピン	その他	39
				その他					
31	南城市	企画部 観光商工課	海外交流推進事業	受入	◎	アジアからの外国人観光客の増加を図るため、アジアから学生インターンシップを受け入れ、海外からの視点で南城市の観光における魅力や課題を探り、地域の観光関連事業者へ共有するとともに、外国人観光客に関する誘客要素や希望を調査する。	香港	その他	3名
				派遣					
				その他					
32	南城市	教育委員会 生涯学習課	南城市海外短期留学事業	受入		南城市在住の中・高校生に海外で学習する機会を与えることにより、心の豊かさや国際感覚を養うと共に、明確な自己表現を培い、国際性豊かな人材育成並びに国際社会に適應する能力、資質の向上を図ることを目的として実施します。	アメリカ合衆国	高校生	5名
				派遣	◎		アメリカ合衆国	中学生	15名
				その他					
33	南城市	教育委員会 生涯学習課	南城市中中学生中国国際交流派遣事業	受入		南城市内在住の中中学生を中国に派遣し、現地の学生と交流を通して、異文化に対する理解・興味・関心が高まることを期待するとともに国際感覚豊かな人材育成を目的に実施します。	中国	中学生	10名
				派遣	◎				
				その他					

No	市町村名	担当部局・課	事業名	事業区分		事業内容・目的	国名	対象 (子弟・姉妹都市・その他)	人数	
34	大宜味村	総務課	南米移住者子弟研修生受入事業	受入	○	大宜味村出身者の南米移住者子弟のうちから優秀な人材を選抜し、県内において技術研修を実施するとともに、村民及び県民との交流を深める中から移住先国の発展に貢献しうる人材を育成し、本村と移住先国の国際交流を図り、ひいては両当事国間の国際親善に寄与する。	ブラジル		1	
				派遣						
				その他						
35	大宜味村	教育委員会(教育課)	外国語指導助手招致事業	受入	○	英語教育の充実を図ることを目的に村内の各小学校に外国人英語指導助手を派遣し、児童・生徒が国際的な知識や感覚を交流を通して体験することにより、異文化に対する理解深め、国際的な感覚を育む。	アメリカ		2	
				派遣						
				その他						
36	大宜味村	教育委員会(教育課)	大宜味村海外短期留学派遣事業	受入		大宜味村在住の中学生・高校生に海外で学習する機会を与えることにより、心の豊かさや国際感覚を養うとともに、明確な自己表現力を培い、国際社会に適応する能力や資格の向上を図り、国際性豊かな人材を育成する。	アメリカ		2	
				派遣	○					
				その他						
37	東村	企画観光課	東村海外移住者子弟研修生受入事業	受入	○	東村出身の海外移住者の子弟を研修生として受入、沖縄県内において技術研修を実施するとともに、村民及び県民との交流を通じ、本村と移住先国との友好親善に資することを目的とする。	アルゼンチン	子弟	2	
				派遣				ブラジル	子弟	2
				その他						
38	東村	教育委員会	東村海外短期留学派遣事業	受入		東村出身の中学生を対象に海外での短期留学機会を与え、交流や体験活動を通して国際的人材の育成を図る。	アメリカ	その他	4	
				派遣	○					
				その他						
39	本部町	企画商工観光課	南米本部町出身子弟研修生受け入れ事業	受入	○	南米本部町出身子弟研修生受け入れ基金条例(平成5年本部町条例第11号)第6条に基づき南米に在住する本部町出身者の子弟を研修生として受け入れ、子弟の人材育成を図るとともに南米諸国との友好親善に資することを目的とする。	パルー	子弟	2	
				派遣						
				その他						
40	本部町	教育委員会	本部っ子短期留学チャレンジ事業	受入		将来を担う中学生を英語圏へ派遣し、現地でのホームステイを実施することにより、今後の英語学習への意欲を高め、また異文化体験をすることにより、広い視野で物事を捉え、積極的にチャレンジする人材育成を目的とする。	アメリカ	その他	15	
				派遣	○					
				その他						
41	恩納村	企画課	恩納村出身者海外移住者子弟等研修生受入事業	受入	1名	恩納村出身のカナダ、アメリカ合衆国、ポリビア、アルゼンチン共和国、ブラジル連邦共和国、パルー共和国の6か国から恩納村出身者子弟研修生を受け入、必要な技術研修及び伝統文化等を理解してもらうとともに、村民及び県民との交流を深める中から移住国における恩納村人会の継承発展に寄与する人材育成並びに恩納村及び沖縄県との友好親善関係の増進に資することを目的としている。	ブラジル	その他	1名	
				派遣						
				その他						
42	恩納村	企画課	恩納村青年海外派遣事業	受入		恩納村G7:K9の青年を恩納村出身者海外移住国へ派遣し、村人会等並びに現地との交流や異文化体験を通じて国際的な視野を広げ、地域において意欲的に活動する青年の育成を図るとともに移住国と恩納村との友好親善関係の増進に資することを目的としている。	アメリカ	その他		
				派遣	3名			ブラジル	その他	
				その他						
43	宜野座村	企画課	世界のギンザンチュ子弟研修生受入事業	受入	○	国際交流の一環として宜野座村出身の海外移住者の子弟を研修生として受け入れ、日本語や沖縄の伝統芸能の習得及び村民との交流を通して社会の発展に寄与する人材を育成するとともに、村民の国際交流思想の高揚並びに研修生の属する国と宜野座村との友好親善に寄与することを目的とする。	パルー・アルゼンチン・ブラジル・ハワイ	子弟	各1名	
				派遣						
				その他						
44	宜野座村	企画課	世界のギンザンチュ交流事業	受入		宜野座村の青年を海外の宜野座村出身者移住国へ研修生として派遣し、村人会並びに現地との交流を通して宜野座村を担う人材の育成を図るとともに、村民の海外躍進、国際交流思想の高揚並びに海外移住国と宜野座村及び沖縄県との友好親善関係の増進に資することを目的とする。	パルー・アルゼンチン・ブラジル・ハワイ	その他	2名	
				派遣	○					
				その他						

No	市町村名	担当部局・課	事業名	事業区分		事業内容・目的	国名	対象 (子弟・姉妹都市・その他)	人数
45	金武町	企画課	金武町海外移住者子弟等研修生受入事業	受入	○	金武町出身の海外移住者子弟等研修生を受け入れ、語学研修や文化教養研修、専門及び希望研修を実施するとともに、移住国との友好親善関係及び、移住国の発展に貢献できる人材、また、将来の移住国の金武町人会や県人会を担う人材を育成することを目的とする。	ブラジル	子弟	1
				派遣			アメリカ(LA)	子弟	1
				その他					
46	金武町	企画課	金武町青年海外派遣事業	受入		金武町の青年2人を北南米に派遣し、本町と移住国との友好親善関係及び人材育成の推進に資することを目的とする。	ブラジル・アルゼンチン・ペルー・アメリカ(LA)	その他	2
				派遣	○				
				その他					
47	金武町	企画課 企画係	ふるさと創生事業	受入		ふるさと創生事業の人材育成・交流事業の研修事業としてカナダのアレクサンダーカレッジ短期大学ヘグローバルビジネスを学び習得する為の長期留学	カナダ	その他	1
				派遣					
				その他	○				
48	金武町	企画課 企画係	ふるさと創生事業	受入		ふるさと創生事業の人材育成・交流事業の研修事業としてイタリアのアカデミアアチヘイタリア料理技術を習得する為の長期留学	イタリア	その他	1
				派遣					
				その他	○				
49	金武町	企画課 企画係	ふるさと創生事業	受入		ふるさと創生事業の人材育成・交流事業の研修事業としてニュージーランドのエズミアカレッジとヴィラマリアカレッジへ実用的な英語力を取得する為の長期留学	ニュージーランド	その他	1
				派遣					
				その他	○				
50	金武町	企画課 企画係	ふるさと創生事業	受入		ふるさと創生事業の人材育成・交流事業の研修事業としてマレーシアのアジアバシフィック大学へ国際的な経営学を取得する為の長期留学	マレーシア	その他	1
				派遣					
				その他	○				
51	金武町	企画課 企画係	ふるさと創生事業	受入		ふるさと創生事業の人材育成・交流事業の研修事業としてカナダのランガラ大学へ英語力向上の為に短期留学	カナダ	その他	1
				派遣					
				その他	○				
52	金武町	企画課 企画係	ふるさと創生事業	受入		ふるさと創生事業のその他町長が認める事業として金武町内で結成した訪問団が調印式及び関連行事に参加することで、今もなお続いているハワイ2世、3世、4世へ金武魂を継承し、本町とハワイ州ホノルル市のさらなる交流につなげる為。訪問団を派遣	アメリカ	その他	7
				派遣	○				
				その他					
53	金武町	企画課 企画係	ふるさと創生事業	受入		ふるさと創生事業の人材育成・交流事業の交流事業として金武町とハワイ州ホノルル市の調印式及びハワイ金武町人会新年会で和太鼓の演舞を行い、交流深める為の交流事業	アメリカ	その他	15
				派遣					
				その他	○				
54	金武町	学校教育課	金武町ハワイ短期留学派遣事業	受入		金武町に在住または保護者が金武町に在住する中学2、3年生及び高校生をハワイへ派遣し、語学研修及びホームステイを実施する。	アメリカ	その他	6
				派遣	○				
				その他					
55	伊江村	教育委員会	伊江村夏期海外短期留学派遣事業	受入		急激に進展する今日の国際社会の中で、教育・文化・スポーツ等の国際交流が盛んになり、国際化に対応し得る国際性豊かな視野の広い人材の育成が求められる。このため、本村の中学校に在学する生徒に海外の学校、その他の教育機関等で学習する機会を与え、外国語によるコミュニケーション能力の育成をとおして、国際理解の基礎を培うことを目的とする。	アメリカ	その他	5
				派遣	○				
				その他					

No	市町村名	担当部局・課	事業名	事業区分		事業内容・目的	国名	対象 (子弟・姉妹都市・その他)	人数
				受入	派遣				
56	読谷村	ゆたさむら推進部 企画政策課	海外移住者子弟 研修生受入事業	受入	○	南米各国及びハワイから海外移住者の子弟を研修生として受け入れ、技術等の習得及び村民との交流を通して社会の発展に寄与する人材を育成するとともに、国際交流思想の高揚ならびにこれら移住国と読谷村との友好親善に資する。	ポリビア	その他	1
				派遣					
				その他					
57	嘉手納町	教育委員会 社会教育課	嘉手納町ハワイ 短期留学派遣事業	受入		嘉手納町の次代を担う中高校生をハワイに派遣することにより、その国の風土及び文化、歴史を学び、青少年の親善交流を通して相互理解を深め、国際性豊かな人材育成並びに将来国際社会に適應する能力と資質向上を図ることを目的とする。	アメリカ	その他	10
				派遣	○				
				その他					
58	嘉手納町	企画財政課	海外移住者子弟 研修生受入事業	受入	○	嘉手納町出身の海外移住者子弟を研修生として受け入れることにより、町民との交流を通して両国の友好を深め、移住先国の発展に貢献し得る人材の育成を図るとともに、町民の国際交流意識の高揚及び移住先国と嘉手納町との国際親善に寄与する。	ブラジル	子弟	1
				派遣					
				その他					
59	北谷町	町長室	海外移住者子弟 研修生受入事業	受入	○	北谷町出身の海外移住者子弟の研修生を受け入れ、技術等の修得及び町民との交流を通して社会の発展に貢献しうる人材を育成するとともに、町民の国際交流思想の高揚並びに研修生の属する国と北谷町との国際親善に寄与する。	ペルー	子弟	1
				派遣			ブラジル	子弟	1
				その他					
60	北中城村	総務課	海外子弟青年 交流事業	受入	○	友好親善と国際交流の推進を図るため、本村出身者が多く経済発展を遂げている南米3カ国(ペルー、アルゼンチン・ブラジル)及び交流可能な海外村人会に研修生を派遣する。また、世代交代が進行する海外子弟の青年に、沖縄の文化・伝統芸能の習得によるウチナーンチュとしてのルーツを再確認してもらい、海外と本村を結び懸け橋となる人材育成を図る。	ブラジル	子弟	1
				派遣			ペルー	〃	1
				その他			アルゼンチン	〃	1
61	北中城村	生涯学習課	DOTE(ドット) プログラム	受入		ブロードバンドオンライン技術を活用したバーチャル教室で提携大学とライブ授業を行う。DOTEプログラムによる英語の学習支援を通して、本村の児童生徒の英語力向上を図るとともに、国際性に富む人材育成に寄与する。	ワシントン 州立大学	村民	24
				派遣					
				その他	○				
62	北中城村	生涯学習課	留学前試験の実施	受入		ワットコムコミュニティカレッジと協定を結び、留学時に必要となる英語の語学力について、テスト方式により事前に確認できる取り組みを実施している。これらにより留学への不安解消につながり、	ワットコム コミュニ ティカレ ッジ	村民	10
				派遣					
				その他	○				
63	北中城村	生涯学習課	第17回中学生・高校生 海外短期留学派遣事業	受入		本村在住の中学生、高校生に海外で学習する機会を与えることにより異文化理解と視野の拡大、国際性豊かな人材育成並びに国際社会に適應する能力、資質の向上を図る。	ワシントン 州立大学	村民	8
				派遣	○				
				その他					
64	北中城村	生涯学習課	第12回北中 城村英語キャン プ・プログラ ム事業	受入		短期留学と同様のカリキュラム及びスタッフによる英語教育を県内において実施することにより、子ども達が楽しく英語を学び、英語力の向上を図るとともに、将来の留学への契機とする。	ワシントン 州立大学	村民	10
				派遣	○				
				その他					
65	中城村	企画課	海外移住者子弟 研修生受入事業	受入	○	海外と本村を結び架け橋となる人材の育成を図るため、海外に移住した中城村出身の子弟研修生として受入、日本語研修、文化研修、地域交流等の交流プログラムを実施する。			
				派遣					
				その他					
66	中城村	生涯学習課	中城村中学生・高校生 海外短期留学派遣事業	受入		村内在住の中学生・高校生に海外で学習する機会を与え、心の豊かさや国際感覚を養うとともに、自己表現力を培い、国際性豊かな人材を育成し、国際社会に適應する能力や資質の向上を図るため、夏休みの期間アメリカ合衆国に派遣する。	アメリカ	その他	9
				派遣	○				
				その他					
67	西原町	総務課	海外移住者子弟 研修生受入事業	受入	○	海外移住者子弟研修生を受け入れ、日本語・沖縄文化の習得、町民との交流を通して社会の発展に寄与する人材を育成するとともに、国際交流思想の高揚及びこれら移住国と西原町の友好親善に資すること。	ブラジル	子弟	1
				派遣					
				その他					

No	市町村名	担当部局・課	事業名	事業区分		事業内容・目的	国名	対象 (子弟・姉妹都市・その他)	人数
68	与那原町	総務課	与那原町海外友好親善大使人材育成事業	受入	○	国際交流の一環として、与那原町出身の海外移住者の子弟を研修生として受け入れ、日本語の研修、沖縄の伝統文化及び専門的な技術等を習得してもらい、与那原町、沖縄県民との友好親善の橋渡しとしての人材の育成を図ることを目的として行っている	ペルー	子弟	2
				派遣					
				その他					
69	与那原町	学校教育課	海外短期留学事業	受入		中学2年生と高校生を対象に、海外の教育機関や家庭等での体験学習の機会を設け、将来国際豊かで、郷土に尽くす有能な人材を育成する為の一環として海外短期留学を実施	アメリカ	中学生	3
				派遣	○		アメリカ	高校生	3
				その他					
70	南風原町	生涯学習文化課	南風原町青少年国際交流事業	受入		児童生徒を海外へ派遣し、現地での視察学習やミドルスクールへの体験入学、ホームステイを行い、学習発表の機会を設ける。児童生徒が国際的視野を広げて地域を見直す機会とし、地域リーダーの育成につとめる。	カナダ	姉妹都市	10名
				派遣	○				
				その他					
71	南風原町	生涯学習文化課	南風原町海移住者子弟研修生受入事業	受入		海外在住の町出身者の子弟を研修生として受入れ、日本語をはじめ必要な技術の習得や、沖縄の歴史文化の学習、親戚や町民との交流をはかる。移民先とのつながりを確立し、国際交流を通してそれぞれの国への理解を深める。	-	-	-
				派遣					
				その他					
72	座間味村	教育委員会	ホームステイ事業	受入		中学生を海外都市に派遣し、その体験を通して英語力と国際感覚を備えた人材を育成する。	アメリカ	その他	5
				派遣	○				
				その他					
73	座間味村	教育委員会	海外青年招致事業	受入	○	村内三小中学校の英語教育指導助手としてALTを受け入れることで、英語教育の充実と異文化への理解を促す。	英国	その他	1
				派遣					
				その他					
74	座間味村	総務・福祉課	海外青年招致事業	受入	○	海外からの観光客受け入れ対応強化のため、国際交流員を招致し、観光案内の最前線で接客するほか、受け入れに関する各種企画立案や村内観光事業所を対象とした英会話指導等を行う。	アメリカ	その他	1
				派遣					
				その他					
75	伊是名村	教育委員会	夏期海外短期留学派遣事業	受入		中学生1人をワシントン州シアトル近郊に派遣。伊是名中学校に在籍する生徒へ海外の中学校及びその他の教育機関等で学習する機会を与えるとともに、国際性豊かな人材育成を図ることを目的とする。	アメリカ	都市	1
				派遣	○				
				その他					
76	伊是名村	教育振興課	JETプログラム事業	受入	○	外国青年を招致し、児童・生徒を対象に外国語教育の充実と地域の国際交流の推進を図る。	アメリカ	その他	1
				派遣					
				その他					
77	久米島町	総務課	国際セミナー(古武術大会)	受入	○	古武術国際セミナーを開催。各国から来島し、古武術の演舞大会や島内視察などを行った。	各国		150
				派遣					
				その他					
78	八重瀬町	生涯学習文化課	八重瀬町国際交流人材育成事業	受入		海外での生活や体験を通して、国際的な視野を持つ人材を育成するため、中学生をハワイに派遣する。	アメリカ	その他	12
				派遣	○				
				その他					
79	竹富町	教育委員会教育課	竹富町ホームステイ事業	受入		将来の日本を担う青少年が、異文化体験を肌で感じ外国語の学習と実践を通じて、真の世界平和樹立に貢献できる人材育成と国際感覚を身に付けさせる。	アメリカ	その他	5
				派遣	○				
				その他					
80	竹富町	教育委員会教育課	外国語指導助手派遣事業	受入		町内幼稚園及び小学校に外国語指導助手を派遣することで、生きた外国語や外国文化・生活に触れる機会を提供し、外国語によるコミュニケーション能力の向上と国際感覚の養成を図る。	アメリカ	その他	1
				派遣					
				その他	○				

No	市町村名	担当部局・課	事業名	事業区分		事業内容・目的	国名	対象 (子弟・姉妹都市・その他)	人数
81	竹富町	教育委員会教育課	外国青年招致事業	受入		町内小・中学校に外国語指導助手を派遣することで、生きた外国語や外国文化・生活に触れる機会を提供し、外国語によるコミュニケーション能力の向上と国際感覚の養成を図る。	アメリカ	その他	2
				派遣					
				その他	○				
82	竹富町	政策推進課	東京オリンピック・パラリンピック関連事業	受入		2020年東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして竹富町応援大使のカデロ氏が在籍するサンマリノ共和国と国際的な交流を推進していくため、「サンマリノ・ニッポンまつり2019」に参加し、お互いの文化を共有し、それをより良く融合させ、その中から生じた新たなエネルギーを国内外に発信し、さらなる竹富町の振興発展に資することを目的とする。	サンマリノ共和国	ホストタウン	6
				派遣	○				
				その他					
83	与那国町	教育委員会	地域国際交流事業	受入		本町の児童生徒が花蓮市へ訪問し、学校カリキュラムへの参加や文化交流、ホームステイを通して相互理解を深める。	台湾	姉妹都市	17
				派遣	○				
				その他					
84	与那国町	教育委員会	外国語教育強化事業	受入		市内小中学校の英語指導助手として、児童生徒が英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成と国際理解を深めるなど、英語教育の充実を図る。	米国	その他	1
				派遣					
				その他	○				

○略語一覧

「HP」 Home Page ホームページ

「JICA」 Japan International Cooperation Agency 独立行政法人国際協力機構

「JOCA」 Japan Overseas Cooperative Association 公益財団法人青年海外協力協会

「SDGs」 Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標

「SNS」 Social Network Service ソーシャルネットワークサービス

「UNC」 Uchinā Network Concierge ウチナーネットワークコンシェルジュ(沖縄県が実施するウチナーネットワーク総合窓口事業の通称)

「URL」 Uniform Resource Locator ユーアールエル(インターネット上の住所)

「Web」 World Wide Web ウェブ

「WUN」 Wourdwide Uchinā Network ワールドウチナーネットワーク

「WUB」 Worldwide Uchinanchu Business network ワールドワイドウチナンチュビジネスネットワーク

「WYUA」 World Youth Uchinanchu Association 一般社団法人世界若者ウチナンチュ連合会

○アンケートにご協力いただいたウチナーネットワーク団体(URLの掲載承認を得られた団体一覧)

1 Okinawa Kai of Washington D.C. <https://okinawakai.org/>

2 宜野湾市国際交流協会 <http://gifea.jp>

3 在台湾沖縄県人会 <https://www.okitw-kenjin.com>

(その他関連サイト)

<https://www.okitwkenjin.com/post/%E5%9C%A8%E5%8F%B0%E6%B9%BE%E6%B2%96%E7%B8%84%E7%9C%8C%E4%BA%BA%E4%BC%9A%E9%81%A0%E8%B6%B3-vol-1>

<https://www.nihaowohao.net/okinawa-night-html>

4 NPO 法人沖縄 NGO センター <https://www.oki-ngo.org/>

5 Azama Honryu Seifu Ichisenkai Kinuko Mototake Dance Academy (安座間本流清風一扇会本竹絹子琉舞研究所)

(活動動画)<https://www.youtube.com/watch?v=GBAE3y6FGcU>

(活動動画)[youtube.com/results?search query=kinuko+mototake](https://www.youtube.com/results?search+query=kinuko+mototake)

(活動記事:在サンフランシスコ日本国総領事館)[https://www.sf.us.emb-japan.go.jp/itpr/en/pr\\_16\\_0627b.html](https://www.sf.us.emb-japan.go.jp/itpr/en/pr_16_0627b.html)

6 宜野座村役場 <http://www.vill.ginoza.okinawa.jp/>

7 サンフランシスコ沖縄県人会 <https://www.sfokk.org/>

(関連サイト)

<https://www.sfokk.org/>

<https://sfcherryblossom.org/history/nccbf2019/2019-performer-profiles/>

8 沖縄県立図書館 <https://www.library.pref.okinawa.jp/>

(移民一世ルーツ調査・相談(レファレンス)サービス:1st Generation Immigration Genealogical Reference Service)

<https://www.library.pref.okinawa.jp/about-okinawa/cat1/post-12.html>

(企画展示「ポリビアに生きる一日系社会の中のウチナーンチュ」)

<https://www.library.pref.okinawa.jp/notice/post-44.html>

9 JICA 沖縄 <https://www.jica.go.jp/okinawa/>

(アルゼンチン研修員の声)

[https://www.jica.go.jp/okinawa/enterprise/kenshu/hitokoto/ku57pq00000d8f6g-att/voice\\_20.pdf](https://www.jica.go.jp/okinawa/enterprise/kenshu/hitokoto/ku57pq00000d8f6g-att/voice_20.pdf)

(ポリビア研修員の声)

[https://www.jica.go.jp/okinawa/enterprise/kenshu/hitokoto/ku57pq00000d8f6g-att/voice\\_35.pdf](https://www.jica.go.jp/okinawa/enterprise/kenshu/hitokoto/ku57pq00000d8f6g-att/voice_35.pdf)

(ペルー研修員の声)

[https://www.jica.go.jp/okinawa/enterprise/kenshu/hitokoto/ku57pq00000d8f6g-att/voice\\_29.pdf](https://www.jica.go.jp/okinawa/enterprise/kenshu/hitokoto/ku57pq00000d8f6g-att/voice_29.pdf)

(ブラジル研修員の声)

[https://www.jica.go.jp/okinawa/enterprise/kenshu/hitokoto/ku57pq00000d8f6g-att/voice\\_32.pdf](https://www.jica.go.jp/okinawa/enterprise/kenshu/hitokoto/ku57pq00000d8f6g-att/voice_32.pdf)

(企画展示「ボリビアに生きる - 日系社会の中のウチナンチュ」)

[https://www.jica.go.jp/okinawa/topics/2020/20201006\\_11.html](https://www.jica.go.jp/okinawa/topics/2020/20201006_11.html)

(中南米日系社会ビジネスセミナー「日系社会におけるビジネスの可能性を探る」)

[https://www.jica.go.jp/okinawa/topics/2020/20201016\\_11.html](https://www.jica.go.jp/okinawa/topics/2020/20201016_11.html)

(セミナー「～県系移民住居地“コロナア・オキナワ”を知ろう～」)

[https://www.jica.go.jp/okinawa/topics/2020/20201015\\_11.html](https://www.jica.go.jp/okinawa/topics/2020/20201015_11.html)

(帰国協力隊員の報告(ブラジル))

<https://www.jica.go.jp/okinawa/enterprise/volunteer/taiken/kikoku/h21/bra01.html>

(日系社会海外協力隊の実績)

<https://www.jica.go.jp/okinawa/enterprise/volunteer/taiken/index.html>

10 ラスベガス沖縄県人会 <https://lvokinawa.jimdofree.com/>

(facebook)Lasvegasokinawa Kenjinkai\_

11 在亜沖縄県人連合会 <https://www.okiren.org.ar/>

12 沖縄 欧州文化連合会 <http://greenh.jp/okinawaculturefj/index-France.html>

(facebook)[www.facebook.com/clubdesanshin](http://www.facebook.com/clubdesanshin)

(パリ三線クラブ)[https://www.youtube.com/watch?v=gfED2kbDP\\_s](https://www.youtube.com/watch?v=gfED2kbDP_s)

(沖縄民謡で踊るアルゼンチンタンゴ)

<https://www.youtube.com/watch?v=ns0oemtuchE>

(パリで流行 アルゼンチンタンゴ指導者アランさん来沖へ)

<https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/58561>

13 浦添市国際交流協会 <https://okinawauira.wixsite.com/uira>

14 ユタ州沖縄県人会 <https://www.okinawautah.com/ja/>

(関連サイト)<https://www.nihonmatsuri.com/copy-of-home>

15 ヒスパニック文化センター <https://youtu.be/9GP2yeRdsFg>

16 大阪沖縄県人会連合会 <https://www.facebook.com/watch/osaka.okinawa>

17 レキオウィングス <https://lequiowings.org/>

(2019年度 日系研修「沖縄ルーツの再認識を通して学ぶソフトパワー活用と地域活性」)

<https://lequiowings.org/2019%E5%B9%B4%E5%BA%A6-%E6%97%A5%E7%B3%BB%E7%A0%94%E4%BF%AE%E3%80%8C%E6%B2%96%E7%B8%84%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%83%84%E3%81%AE%E5%86%8D%E8%AA%8D>

[%e8%ad%98%e3%82%92%e9%80%9a%e3%81%97%e3%81%a6%e5%ad%a6/](https://lequiowings.org/%e7%ac%ac5%e5%9b%9e%e4%b8%96%e7%95%8c%e3%82%a6%e3%83%81%e3%83%8a%e3%83%bc%e3%83%b3%e3%83%81%e3%83%a5%e5%ad%a6%e7%94%9f%e3%82%b5%e3%83%9f%e3%83%83%e3%83%88%e3%81%8c%e9%96%8b%e5%82%ac%e3%81%95-2/)

(第5回世界ウチナーンチュ学生サミット)

<https://lequiowings.org/%e7%ac%ac5%e5%9b%9e%e4%b8%96%e7%95%8c%e3%82%a6%e3%83%81%e3%83%8a%e3%83%bc%e3%83%b3%e3%83%81%e3%83%a5%e5%ad%a6%e7%94%9f%e3%82%b5%e3%83%9f%e3%83%83%e3%83%88%e3%81%8c%e9%96%8b%e5%82%ac%e3%81%95-2/>

18 カンポグランデ沖縄県人会 <https://wun.jp/wun/associations/associacao-okinawa-de-campo-grande>

(facebook)

<https://m.facebook.com/login.php?next=https%3A%2F%2Fm.facebook.com%2Fokinawacgms%2F&refsrc=http%3A%2F%2Fwww.google.co.jp%2Furl&rdr>

19 一般財団法人 兵庫沖縄協会(沖縄県人会兵庫県本部) <http://hyogo-okinawa.jp/>

20 WUB 沖縄 <https://www.wubokinawa.com/>

21 Calgary Okinawan Club <https://calgaryokinawanclub.wixsite.com/club>

22 オハイオ州沖縄友の会 <https://youtu.be/Xscy66hw1Vw>

23 Atlanta Okinawa Kenjin Kai <http://www.atlantaokk.org/>

(関連サイト) [Atlantaokk.org/events](http://www.atlantaokk.org/events)

24 Okinawa Karate and Kobudo Federation of Russia

(関連サイト) <http://okinawakarate.ru/>

(関連サイト) <http://okinawakarate.ru/novosti/festival-sakura-2019>

(関連サイト) <http://okinawakarate.ru/novosti/mezhdunarodnyy-seminar-po-karate-s-legendarnymi-masterami-v-moskve>

25 Houston Okinawa Kenjinkai

(関連サイト) <https://mail.google.com/mail/u/1/?hl=en#inbox>

(関連サイト) <https://mail.google.com/mail/u/1/?hl=en#inbox?projector=1>

26 Yonabaru Chojinkai del Perú

(関連サイト) <https://www.youtube.com/watch?v=dMKDtckBiW0>

(関連サイト)

<https://www.facebook.com/AOPPERU/photos/a.10154843913540319/10154843913945319/>

27 Kimutaka

(facebook)

<https://www.facebook.com/kimutakaperu/photos/1015800722215681>

(活動動画)<https://www.youtube.com/watch?v=UMhAQyM4NO4>

(活動動画)<https://www.facebook.com/kimutakaperu>

28 COOPERATIVA DE AHORRO Y CRÉDITO AOPCOOP.

<http://www.aopcoop.com.pe>

29 Okiryukai <https://okiryukai.wordpress.com/>

30 Centro okinawense en la Argentina

(関連サイト)

<https://www.facebook.com/centrookinawenseenlaargentina/photos/pcb.3508104459263547/3508079819266011/>